

福島県病院協会会報

(No.120)

2026.2



シリーズ⑤⑩病院の絵画

「mener qu en bateau V」

作者 坪 内 好 子 氏

公立藤田総合病院 所蔵

— も く じ —

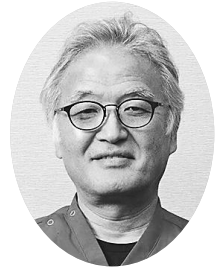
巻頭言	「支援は急を要する」 ～政策の実効性と医療現場の財政改善に向けて～ いわき市病院事業管理者 新 谷 史 明 ……	1
報告	「令和7年度一般社団法人福島県病院協会定期総会を開催」 ……	3
特別講演	「彼を知り己を知れば、百戦殆うからず－歴史に学ぶ品質管理－」 麻生飯塚病院 顧問 安 藤 廣 美 ……	7
新役員	会津中央病院 病院長 前 田 佳一郎 ……	9
	太田西ノ内病院 病院長 高 橋 皇 基 ……	13
	二本松病院 院長 鈴 木 眞 一 ……	16
講座紹介	福島県立医科大学小児科学講座 教授 郷 勇 人 ……	17
講座紹介	「福島県立医科大学眼科学講座のご紹介」 福島県立医科大学眼科学講座 主任教授 向 井 亮 ……	20
渡辺さんの法律相談室	…………… 弁護士 渡 辺 健 寿 ……	25
お知らせⅠ	令和6年度会務報告について（令和6年4月～令和7年3月） ……	28
お知らせⅡ	福島県からのお知らせ（令和6年4月～令和7年3月） ……	48
広報委員会より	作品募集のお願い……………	69
編集後記	……………	70

巻頭言

「支援は急を要する」

～政策の実効性と医療現場の財政改善に向けて～

いわき市病院事業管理者 新 谷 史 明



2025年秋、高市早苗首相は就任直後の記者会見および国会答弁において「医療機関の経営難は深刻であり、支援は急を要する」と明言し、診療報酬改定を待たずに補正予算による支援を前倒しで実施する方針を示した。医療・介護従事者の処遇改善や食材費・光熱水費の高騰対策などを柱とする支援策は、2025年度補正予算案に盛り込まれ、今国会会期末までの成立が目指されている。

この巻頭言が発行される頃には、こうした支援策の具体的な内容や、2026年度診療報酬改定の基本方針もおおむね固まっているはずだが、単年度の補助金措置にとどまるのか、それとも診療報酬という恒常的な収入構造の改善にまで踏み込むのか——その違いは、地域医療の将来を大きく左右することになる。

高市政権は日本維新の会との連立により誕生した政権であり、維新が掲げる「医療の効率化」や「病床削減」は、財務省の歳出抑制路線と軌を一にしている。すなわち、支援の裏には構造改革の加速が控えており、単なる予算増では医療機関の赤字解消には至らない可能性がある。

特に懸念されるのは、これまで進展が鈍かった病床削減が、赤字を理由に一挙に進められ、医師の処遇も「コスト」として一方的に切り下げられるような政策が現実化すれば、地域医療の根幹を揺るがす重大な問題となる。医療は効率性だけで語れるものではなく、地域の安全保障であり、人的資源の確保と育成が不可欠であり、財政論だけが先行する政策判断は、地域医療の崩壊を招きかねない。

物価高騰と最低賃金の上昇により、人件費・委託費・光熱費は限界を超えつつあり、現場では赤字が常態化していることは多くの病院団体の統計からも明らかである。厚生労働省は2026年度の診療報酬改定で、本体部分のプラス改定を強く主張しているが、財務省は「補助金で対応済み」として抑制姿勢を崩しておらず、診療報酬による恒常的な収入改善が後回しにされる懸念がある。

外来医療においては、診療所側から「初再診料の引き下げ」や「包括化の拡大」に対する強い反発が上がっており、地域の外来医療の最前線を担っている診療所側にとって、物価高騰下で外来部分の報酬が削られることは、経営の根幹を揺るがす問題であろう。

一方、病院外来ではDPC外来の包括評価や、紹介受診重点医療機関の評価見直しが焦点となっており、病院機能の分化と集約を促す方向性が強まっている。入院医療では、地

域包括ケア病棟や療養病棟の評価体系の見直しが検討されており、中小病院の経営に直結する課題である。

さらに、医師の働き方改革に伴うタスクシフト・タスクシェアの推進、看護職員配置の柔軟化など、診療所と病院の役割分担が再定義される局面にあり、人口減少と高齢化が進む中で、診療所と病院が連携し、地域包括ケアの中核を担う体制の構築が急務である。

診療報酬改定は、単なる点数の増減ではなく、地域医療の持続可能性を左右する制度設計そのものであり、我々医療者は、地域の健康を守る社会インフラの担い手として、現場の声を政策に反映させる責務がある。福島の実情と課題を的確に伝え、診療報酬の構造的な改善を通じて、赤字の解消と持続可能な医療提供体制の確立を目指して、共に声を上げて行くことが必要であろう。

令和7年度一般社団法人福島県病院協会定期総会を開催

令和7年度の定期総会は、令和7年5月15日(木)15時から、福島県医師会館「大会議場」で開催されました。

総会への出席状況は、構成会員114病院のうち、出席会員20病院、委任状提出会員87病院、欠席会員7病院でした。

佐久間 啓副会長の開会宣言に始まり、佐藤勝彦会長から次のような挨拶がありました。

【佐藤勝彦会長挨拶】

皆様こんにちは、会長の佐藤でございます。
定期総会にあたりご挨拶申し上げます。

だいたい季節も進みまして新緑が眩しい季節になりました。皆様におかれましては福島県病院医療の充実発展にご尽力賜り誠にありがとうございます。

本日ここに、ご来賓として福島県保健福祉部長 菅野俊彦様をお迎えし、定期総会を開催できましたこと感謝と喜びに堪えません。福島県医師会会長 石塚尋朗先生には出席はかないませんでしたでしたがメッセージが寄せられています。また、お忙しい中、協会役員の先生がた初め、多くの会員の皆様にもご参加くださりまして誠にありがとうございます。

昨今の病院医療については、コロナが収まったと思いきや、色々な感染症が流行し、まさに混合感染でありまして、あちこちの病棟の患者や職員も感染者が後を絶たない状況で、医療を行っていく上ではなかなか気を許すことはできない状況です。

さらに、急性期病院ではコロナの流行で減少した患者は、以前のようにはまだ戻ってきていない段階で、病院収益の減少が続いており、さらに追い打ちをかけるように物価高騰や賃上げなどの費用が増大して、病院経営は大変困難を極めている状況が続いています。さらに医師の働き方改革では、時間外勤務や連続勤務の制限があり、対応に苦慮している病院もあるとお聞きしています。このように、病院医療を維持し、継続していくには解決すべき課題が山積しております。福島県病院協会としてはこれらの問題を少しでも改善すべく、国や県などの行政機関に対し、病院医療への支援を強く要望して参りたいと考えております。

本日の総会では、令和6年度の決算と令和7年度の事業計画などをご審議いただきます



佐藤勝彦会長あいさつ

が、病院協会の運営につきましては、会員病院の減少、コロナの影響による研修会への参加者の減少による事業収入の減少や、物価高騰や郵便料金値上げなどによる事業費用の増大が見込まれ、収支バランスを取るために、これまでの事業内容を見直す必要が出てきております。後ほどご説明いたしますので慎重なご審議をお願いしたいと思います。

私から皆様に一つ報告したいことがあります。先ほど開催されました日本病院会福島支部総会でご承認いただいた件ですが、日本病院会理事長 相澤先生のご意向により、日本病院学会を2年後の2027年7月に福島県郡山市のビッグパレットで開催することになりました。その学会会長を私が担うことになりましたのでご報告申し上げます。現在、日本病院会福島支部の支部長は竹田綜合病院の本田先生で、副支部長は白河厚生病院の前原先生ですが、私も副支部長に就任することになりました。また、前原先生は日本病院会の理事に再任されまして、今季からは私も日本病院会の理事に就任することになりました。日本病院学会を福島県で開催するのは初めてだとお伺いしていますが、日本病院会事務局からは、福島県に特有の楽しい学会にしてくれとの要望もありまして、これから福島県病院協会の会員の皆様にも地元のホスト病院として学会運営にご協力をお願いしたいと考えていますので何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、本日は総会の後に特別講演を企画しております。麻生飯塚病院の安藤廣美先生に医療における品質管理についてご講演を賜ることになっています。病院にとって医療の質向上は至上命題で、各病院とも医療の質改善に取り組んでおられると思います。安藤先生は「医療のTQM推進協議会」の理事長をお務めになられ、医療の質改善活動には造詣が深く経験豊かな先生ですので、本日の特別講演の講師としてお招きしました。今後の私たちの取り組みの参考になると思い企画いたしましたので最後までご聴講をお願いしたいと思います。

また、会場にお集まりの皆様には、特別講演の後に、久しぶりに懇親会を行うことになっておりますので、時間の許す限りお付き合いくださいますようお願い申し上げまして、私からの挨拶といたします。

本日はどうかよろしくお願い申し上げます。

続きましてご来賓の福島県保健福祉部長様より、次のようなご祝辞をいただきました。

【菅野俊彦福島県保健福祉部長 来賓祝辞】

ただいまご紹介にあずかりました、福島県保健福祉部長の菅野でございます。令和7年度一般社団法人福島県病院協会定期総会の開催にあたり、お祝いを申し上げます。会員の皆様には日頃より県民の健康の保持、医療の充実など、本県の保健医療行政の進展に格別のご支援ご協力をいただいておりますことに、心から御礼を申し上げます。

インフルエンザ、新型コロナウイルスをはじめとした各種感染症の発生動向を継続して注視している中、皆様におかれまし



菅野俊彦福島県保健福祉部長

ては、県民の命と健康を守るため、日々精力的にご対応をいただいておりますことに、改めて深く感謝申し上げます。今年度は昨年3月に策定しました第8次福島県医療計画の2年目にあたります。各施策の進捗状況と効果検証を行いながら、救急や小児周産期医療等の体制の強化、医療人材の確保のほか、コロナ禍の教訓を踏まえた新たな感染症発生時における医療体制の構築などについて、会員の皆様をはじめとする医療機関や医師会などの関係団体の皆様と共に取り組み、計画を着実に推進してまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

また、東日本大震災と原発事故から14年余りが経過し、特定復興再生拠点区域におきましても除染や解体が進められるなど、住民の帰還に向けた生活環境の整備が進展しておりますが、双葉地域における中核的病院の整備を含め、避難地域の医療提供体制の確保は今後も重要な課題の一つであります。県といたしましては、全ての県民が心身ともに健康で、豊かさや幸せを実感できるよう、様々な施策を一つ一つ着実に実現させてまいりますので、今後ともなお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。結びに、福島県病院協会のますますのご発展と、ご参会の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。本日の総会、誠にありがとうございます。

【石塚尋朗福島県医師会長 来賓祝辞（代読 事務局長 八巻秀一）】

医師会事務局長の八巻でございます。医師会会長より祝辞を預かってまいりましたので代読させていただきます。令和7年度一般社団法人福島県病院協会定期総会開催にあたり、お祝いを申し上げます。皆様が昼夜を問わず本県の医療現場を守り、福島県民の医療面で支えていく社会的役割を果たしておられますことに、福島県医師会を代表して深く御礼申し上げます。

さて、私たち医師にとって多難な時代が続いております。東日本大震災と原発事故という複合災害からの復興も半ばで、2020年に新型コロナウイルス感染症パンデミックが始まりました。

この事態に直面し、多くの病院が、新型コロナウイルス感染症拡大防止並びに受診医療機関として、いち早く帰国者・接触者外来を開設され、長期にわたりコロナとの戦いの陣頭に立たれました。医師のみならず、看護職、事務職、その他多くのスタッフが力を尽くされ、そのために疲弊して職場を去った方も多いと聞き及んでおります。コロナウイルス感染症は5類に分類されましたが、今度は人手不足の中、光熱費や材料費などの諸物価高騰、診療報酬改定による医療費の削減などによりまして、病院経営が厳しい状況にあることは想像に難しくありません。昨年4月には働き方改革が始まりました。働き方改革の実践には、病院主導の医療提供体制や管理などの、内部管理が求められ、管理職なども含め、共に頭を悩まされていることと存じます。そのような中で、地域の医療を支える社会的存続として内部統制に取り組み、職員の労働環境に留意し、さらには病院中心の医療から地域全体で医療・介護を提供する体制構築が推進される今、医療機関との連携を密に行



八巻秀一事務局長

い、地域包括ケアシステムの担い手となり、その中で、病院にしかできない機能に特化する必要に直面し、常に即応が求められ、頼りになる病院として地域を支えていく。このような日々を送っておられる皆様に、改めて、敬意を表させていただきます。私ども医師はそれぞれの立場を理解していかなければなりません。働き方改革が開始されてから、現場の声を皆様から、ご意見をいただき、会報に記載させていただきますが、福島県の医師すべてが今現場で起こっていることを理解し、課題を共有していくことが求められております。

14年前に東日本大震災と原発事故という複合災害を体験した福島県医師会は、他県の医師会をまとめ、災害時医療協力体制構築に向けて指導しておりますが、この取り組みに、病院の皆様のご支援、ご協力が必要なことは言うまでもありません。私ども福島県医師会は、県民を医療面で支えるために今後も様々な面で皆様との連携を強化させていただきたいと考えております。格段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりますが、福島県病院協会のますますのご発展と皆様のご健勝をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

【議長及び議事録署名人の選出】

議長選出では、一般財団法人大原記念財団 大原医療センター 石橋敏幸病院長が選出されました。

議長あいさつ後、議事録署名人として、福島赤十字病院 鈴木恭一院長、公立岩瀬病院 土屋貴男院長が議長より任命されました。

【議案】

- 第1号議案 令和6年度事業報告について（本田雅人副会長より説明）
- 第2号議案 令和6年度収支事業報告について（事務局より説明）
監査報告（鈴木眞一監事より報告）
- 第3号議案 令和7年度事業計画（案）について（本田雅人副会長より説明）
- 第4号議案 令和7年度収支予算（案）について（事務局より説明）



石橋敏幸議長

石橋議長は、第1号議案～第4号議案の各議案について議場に質疑を求めたが、発言がなく満場異議なく原案のとおり承認されました。

最後に新谷史明副会長が閉会を宣言し令和7年度定期総会を終了しました。

続いて「彼を知り己を知れば、百戦殆うからず－歴史に学ぶ品質管理－」を演題に社会福祉法人柏芳会記念福祉事業会 理事長 安藤廣美先生による特別講演が行われた。

講演会終了後、別会場にて懇親会が開催され、会員の親睦を深め散会しました。

彼を知り己を知れば、百戦殆うからずー歴史に学ぶ品質管理ー

麻生飯塚病院 顧問 安 藤 廣 美先生

座長：一般社団法人福島県病院協会 会長 佐藤 勝彦

(一般財団法人大原記念財団 大原綜合病院 理事長兼統括院長)

医療 TQM 導入指針：飯塚病院の事例に学ぶ包括的品質管理の戦略的展開

1. イントロダクション：医療における TQM の戦略的意義

現代の医療経営において、TQM（総合的品質管理）は単なる現場の「改善活動」ではない。それは、激変する社会環境の中で組織の存立を確固たるものにするための、不可欠な経営戦略として位置づけるべきである。医療の質向上と経営効率の両立は、属人的な努力に頼るフェーズを脱し、科学的なシステム管理へと移行しなければならない。

飯塚病院における TQM の歩みは1992年、TQM 活動の導入から始まった。当初は産業界の手法に対する抵抗もあったが、30年以上にわたる継続的な実践を経て、2022年には日本国内の医療機関として初めて「デミング賞」を受賞した。この成功の本質は、医療を「管理可能なプロセス」として再定義し、組織の DNA に品質管理の思考を組み込んだ点にある。



安藤廣美理事長

2. 医療品質管理の歴史的変遷と世界的潮流

医療品質管理の現代的手法は、1980年代後半のアメリカにおける産業界との融合によって確立された。この変遷を辿ることは、医療を「アート（技術）」から「プロセス（仕組み）」へとパラダイムシフトさせる戦略的意義を理解する上で不可欠である。

現代の医療経営において、この歴史的背景を看過してはならない。もはや質と効率は二者択一ではなく、システムによって同時に達成されるべき経営の基盤である。

3. プロセス管理の構造化：PFC（プロセスフローチャート）による可視化

TQM の基盤は、医療行為を「製品（成果物）」の連続として捉える視点にある。医師、看護師、コメディカル間の連携を単なる「コミュニケーション」という曖昧な言葉で片付けるのではなく、PFC を用いて厳密に構造化しなければならない。

「後工程はお客様」という概念の戦略的実装

医療現場における「後工程」とは、自分の業務成果を受け取る次の担当者、そして最終的には患者自身を指す。医師の検査オーダーは検査技師にとっての「原材料」であり、検査技師の結果報告は医師にとっての「製品（判断材料）」である。この連鎖において、

後工程が要求する品質を満足させることが、医療ミスの防止と効率化の核心である。

4. 医療安全とリスクマネジメント：FMEA の戦略的活用

事故発生後の再発防止に留まる「リアクティブ（後追い）」な管理は、現代の医療安全としては不十分である。アポロ計画や航空業界で培われた FMEA（故障モード影響解析）を導入し、事故を未然に防ぐ「予測型」リスク管理を徹底すべきである。

FMEA の本質は、個人の不注意を責めることではなく、エラーを誘発する「システムの不備（故障モード）」を事前に特定し、スコアリングによって優先順位をつけて潰し込むことにある。アポロ13号が深刻な事故に見舞われながらも全員無事に帰還できたのは、考えうるすべての故障モードに対して、事前に回復プロセス（FMEA）が設計されていたからに他ならない。投薬プロセスや手術準備において、ヒヤリハットの集計を超えた「構造的なエラー排除」を経営層が主導しなければならない。

5. トヨタ生産方式（TPS）の医療への応用：タクトタイムと効率性の追求

医療現場における「効率」とは、単なるスピードアップではなく、価値ある時間（バリューアデッドタイム）の比率を最大化することである。

孫子の「彼を知り己を知れば百戦危うからず」を現代の医療経営に当てはめれば、以下の通りである。

彼を知る（外部環境分析）：PESTLE 分析や外部マーケティングによる患者・社会ニーズの把握。

己を知る（内部環境分析）：SWOT 分析による自院の強み・弱みの冷徹な把握。この両輪が揃って初めて、組織は迷いなく目標へ向かうことができる。

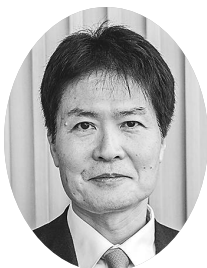
結論：持続可能な医療品質向上のための行動原則

TQM は一過性の流行ではなく、組織が進化し続けるための「適応戦略」である。経営層は以下の行動原則を全うすべきである。

DX によるデータ駆動型経営は、電子カルテの標準化を急ぎ、個人の経験則に加え客観的データに基づいた意思決定が組織に必要である。（個人の経験則は暗黙知として必要です。現場の問題や患者さんの行動から把握することのできるニーズは個人の持つ Theory of mind（心の理論）によって情報収集可能です。PX：Patient Experience）

ダーウィンは「生き残るのは、最も強い種でも賢い種でもなく、変化に最も適応できる種である」と説いた。医療という高度に複雑なシステムにおいて、TQM による絶え間ない自己変革こそが、次世代の医療を担う唯一の道である。職員一人ひとりが「改善」という武器を持ち、自律的に進化し続ける組織を構築することを強く期待する。





福島県病院協会理事就任にあたり

会津中央病院

病院長 前 田 佳一郎

2023年4月1日より会津中央病院病院長になり、この度福島県病院協会理事を拝命した前田です。病院が、医療従事者の不足や国の医療費抑制政策のあおりを受けた経営の悪化などの諸問題を抱える中、このような重責を担うことになり、使命の重さを実感する毎日です。福島の病院医療の未来のために、皆様とともに努力していきますので、よろしくお願いします。

【自己紹介】

自分は、東京都台東区の谷中で生まれ育ちました。谷中は今では、谷根千（やねせん：谷中と根津と千駄木を合わせた総称）と言われ、外国人にも人気の観光スポットになっていますが、自分の子供のころは観光客の数は決して多くなく、お寺と墓地ばかりが一杯のところでした。

大学に入学したのは1984年で、これから日本がバブルに突入するころでした。このころは景気もよかったためか、今ほど医学部の人気も高くなく、周囲の高校の友人たちも成績がいいからといって医学部を選ぶ時代ではありませんでした。自分は親族に一人も医療関係者がいないため医師の具体的な仕事内容がわかりませんでしたが、それでも人間に関わる仕事がしたいと考えて医学部に行こうと決めました。

1990年に大学を卒業して、外科医へのあこがれと脳という不思議な臓器にひかれて東京大学の脳神経外科に入局しました。想像はしていましたがほとんど外に出られない生活が医者になって数年続き、この先やっていけるかと不安もありました。ただ、結果的には脳神経外科医になったことで様々なことを経験することができ、自分の人生が本当に豊かになったと今では思っています。脳神経外科の手術、脳虚血の基礎実験、そして海外生活から多くのことを学ぶことができました。

脳の手術は、他の手術を知らないので比較はできないものの、難易度は高いのかもしれませんが。しかしそんな脳外科の手術も、顕微鏡下できちんと手が動くように練習を続けること、他の人の手術をよく見ること、手術前に一例一例十分に検討することで、スムーズに手術をすることが可能になります。当たり前とはいえ、基礎訓練や日常の勉強が困難を乗り越えるのに重要だということを実地で感じられました。

また、脳神経外科を専攻したことで、基礎実験に没頭する時間を専門医取得後約4年もらえました。その中ですぐれた研究者が実験の結果以上にその過程を重視するのを見て、物事を成し遂げるにはそのために正しいプロセスを踏んでいかなければならないことがわかりました。また、留学先のドイツ Max-Planck 研究所の Hossmann 教授は、すべての人に公平で温かく学問に真摯な、絵にかいたような立派で尊敬できる人でいらっしゃいましたが、実験の流行に左右されず脳虚血の臨床に真に役立つ研究は、MRI 画像の進化と脳梗塞急性期の tPA 投与だという強い信念をもっておられ、それが30年後の今証明されています。物事の本質を流行に惑わされず追うことの重要性を学びました。

留学先のドイツでは、30年前に日本より大きく進んで少子化対策や環境問題に取り組んでいるのを見ました。具体的には子供のいる家庭への手当や住宅提供、ゴルフ場建設や車のアイドリング禁止などです。広い世界を見る重要性を認識できました。

【会津中央病院の紹介】

会津中央病院は、昭和52年4月1日に開設されました。当初より急性期医療を担う総合病院としてスタートし、地域の医療基盤を支える役割を担ってきました。1981年10月には救急センターを設立し、医師・スタッフによる24時間体制の急変対応の整備が図られました。さらに1986年4月には「三次救急医療施設」の指定を受け、地域でも特に重篤な患者を受け入れる態勢が整えられました。



2002年1月には運営法人の名称を「一般財団法人温知会会津中央病院」へ変更、法人としての基盤強化を図りました。その後も、ヘリポートやドクターカーの導入、臓器提供施設の指定、がん診療連携拠点病院の認定など、設備・機能の充実が継続的に進められています。

現在、当院は713床の許可病床数を有し、福島県会津若松市鶴賀町に位置する地域の中核病院として、急性期医療、救命救急、がん診療、災害医療など多岐にわたる専門機能を展開しています。救命救急では、会津・南会津医療圏をカバーする唯一の三次救急施設として、地域の「最後の砦」としての役割を果たしており、ドクターカーやヘリコプターを活用した搬送・治療体制も整備されています。

がん治療分野でも、2022年にはがん治療センター・透析センターが新たに竣工し、放射線治療や化学療法、手術治療を一体的に提供する集学的治療体制が構築されています。また、災害時対応としても、地域災害医療センターやDMAT 指定医療機関となり、大規模災害発生時の拠点としての責任も担っています。

さらに、電子カルテや画像診断装置、IT システムの導入など「高度情報化・設備更新」にも注力しており、患者・地域に対して質の高い医療サービス提供を目指しています。

高齢化や人口減少が進む会津地域において、地理的にも都市部から離れた環境という事情の中、会津中央病院は“地域医療の要”として位置づけられています。救急・がん・災害対応を含めた包括的な機能を地域内で提供することで、遠方搬送のリスクを軽減し、住民の安心につながっています。医療・福祉・教育を統合した法人グループとして、病院だけでなく介護・在宅支援・健診・予防医療といった領域にも参画しています。



【会津中央病院の取り組み】

現代の医療情勢は、まさに歴史の転換点とも言える状況にあります。人口減少と少子高齢化はますます進行し、地域によっては医療需要が拡大する一方で、担い手の不足が深刻化しています。特に地方における医師不足、専門科偏在、若手医師の過重労働は、医療提供体制の持続可能性を大きく揺るがしております。さらに、医療費の増大は国の財政を圧迫し、診療報酬の改定や効率化の要請が年々強まっています。加えて、感染症や自然災害といった不測の事態にも常に備えなければならず、医療を取り巻く環境はかつてないほど厳しさを増しております。

では、私たちが直面する前述の課題を具体的にどう克服していくのか。まずは、地域医療連携のさらなる強化が欠かせません。病院単独で医療を完結するのではなく、周囲の診療所や介護施設、訪問看護ステーションと連携しながら、地域医療全体のハブとしての機能を一層発揮できるようすすめて、患者様一人ひとりの生活を支える医療の実現を目指しています。

さらに、人材育成と働き方改革が急務です。医師、看護師、事務職員など多職種にわたって人手不足が生じている中、単なる待遇改善にとどまらず、職員が安心して長く働ける環境づくりが不可欠です。若手医師には教育・研修体制を充実させ、看護職や事務職員の皆さまに対しては、勤務形態の柔軟化（短時間勤務や育児との両立支援など）や、資格取得をサポートするなどやりがいの創出を行っています。また、地域の小・中・高校と連携して医療職の魅力を伝える職場体験を行うことにより、将来の医療人材の育成にも寄与できるよう心がけています。

会津地域は災害リスクのあるエリアでもあり、災害拠点病院としての備えも極めて重要です。地震や豪雪などの自然災害に備え、災害訓練を定期的に行い、地域の行政・消防との連携体制を構築しておくことが求められます。災害時には医療のみならず、避難所での健康管理や感染症対策にも関与する役割が期待されます。

ICT・DXの推進も行っており、業務の効率化と人的負担の軽減を試みようとしています。病院の魅力発信・広報活動の強化と考えて、SNSやウェブサイトを活用して、診療科の特色、医療スタッフの想いや活動の様子を発信するなどして、地域住民との信頼関係を築くとともに、求職者に対する病院の魅力訴求にもつなげています。

【最後に】

会津中央病院が地域医療に果たすべき役割は多岐にわたりますが、その根底にあるのは「地域とともに歩む医療機関」であるという姿勢です。医療の質だけでなく、人と人とのつながりを大切にしながら、地域社会全体の健康を支える存在として進化していくことが、これからの会津中央病院の使命であると考えます。福島県の他の医療機関と連携協力しながら地域医療の向上に努めますので、引き続きよろしくご指導ください。



新役員挨拶

太田西ノ内病院

病院長 高 橋 皇 基

このたび、一般財団法人福島県病院協会の理事に就任いたしました、太田西ノ内病院の高橋です。執筆の機会を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

私は現在58歳で、心臓外科医として臨床一筋に歩んでまいりましたが、2023年4月に病院長を拝命し、3年目を迎えております。この間、福島県病院協会の諸先輩をはじめ、多くの方々からご指導を賜り、何とか任務を全うすることができております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私が太田西ノ内病院に入職いたしましたのは2008年でございます。心臓血管外科医として診療に従事しながら、医療安全管理や研修医教育にも携わってまいりました。2021年に副院長、2023年に病院長を拝命し、現在に至っております。畑違いの業務に戸惑うことも多々ございましたが、周囲の支えを得ながら、一つひとつの課題に真摯に向き合い、実務を積み重ねてまいりました。

太田総合病院は2025年に開設130年を迎えます。この長い歴史の中で、太田西ノ内病院、太田熱海病院、老健桔梗、太田看護専門学校、桔梗保育園などを運営し、地域とともに歩んでまいりました。法人全体で2,000人を超える職員を擁し、そのうち7割が太田西ノ内病院で働いております。地域医療を支える基幹病院として、職員一人ひとりが使命感を持って日夜奮闘しております。病院長として、歴代院長の志を受け継ぎ、地域に信頼される病院づくりに力を注いでおります。

診療報酬改定のたびに、医療の効率化と集約化が求められ、急性期病院としての収益性を高めるため、各種加算の取得や病棟の集約化を進めております。限られた人員と資源の中で、医療の質と経営の両立を図るための取り組みを重ねており、職員が誇りを持って働ける環境整備にも努めています。

2020年以降の新型コロナウイルス感染症の流行期には、当院は一時的に地域からの信頼を損なう苦しい時期を経験いたしました。人工呼吸器管理やECMO、透析治療を要する重症患者の受け入れには、通常の3～5倍の人員を要し、通常診療を縮小せざるを得ませんでした。その結果、救急車の受け入れ件数は5,000台から3,000台へと減少し、緊急手術の実施も制限せざるを得ませんでした。ご紹介いただいた患者を受け入れられない日々が続くなか、2021年2月には大規模クラスターの発生という大きな試練にも直面しました。

現在、太田総合病院は地域の信頼回復を最重要課題と位置づけ、全職員が一丸となって

再生への歩みを進めております。救急車受け入れ件数も5,000台規模に回復し、「紹介患者お断りゼロ」を目標に、引き続き努力を重ねてまいります。

救急医療と並行して、当院では急性期からのリハビリテーションにも力を入れております。急性期治療を終えた患者さんがより健全な状態で社会へ戻れるよう、回復期リハビリテーション病棟を開設しました。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を中心に、医師・看護師・ソーシャルワーカーが一体となって支援する多職種連携体制を整備し、急性期から回復期、そして在宅医療へとつなぐシームレスなリハビリ介入を実現してまいります。地域の介護施設や訪問リハビリ事業所とも連携し、医療と介護の連続性を確保することで、安心して地域で暮らせる環境づくりを目指しています。

また、教育面においては、「研修医が集まる病院」を目標に、教育体制の充実を図っています。多くの診療科と豊富な症例を活かし、若い医師が地域医療の最前線で学び、成長できる環境を整えています。チーム医療を実践的に学べるよう指導体制を強化し、専門性だけでなく、患者や地域に寄り添う姿勢を身につけた人材育成を進めています。太田看護専門学校や桔梗保育園とも連携し、看護・介護・保育など、医療を支える多職種が互いに理解し合いながら成長する仕組みを構築しています。

小児救急医療の集約化に際しては、自治体や医師会との連携を一層強化し、夜間・休日を含めた迅速で切れ目のない診療体制を構築しています。また、地域周産期母子医療センターとして、妊産婦と新生児の命を守る取り組みを推進しています。重症外傷センターとしても、高度救命救急の受け入れ体制をさらに整備し、県内どこからでも搬送を受け入れられる機能強化を進めています。これらの取り組みを通じ、地域の「命を守る最後の砦」としての責務を果たしてまいります。

この他、地域とのつながりを深める活動として、院内での職場体験「Medi-Kids」を開催し、地域の子供たちに病院内の様な業務を体験していただいております。

いわゆるバックヤードツアーから、見て聞いて体験するプログラムになっています。今年2月のプログラムでは、手術室（手術支援ロボット：ダヴィンチの操作）、ドクターカー（助手席に乗って記念撮影）、薬剤部（ハンドクリーム作り）、リハビリ（松葉づえや車いすの体験）、臨床検査部（はたらく細胞を見てみよう）、歯科（光で固まる樹脂を使って自分だけのリングを作ってみよう）を回っていただきました。未来を創る子供たちが目を輝かせて体験している姿に感動しました。

9月14日には、「安全・安心・健康まつり」も2年目を迎えて、1,400人を超える地域の皆様にご参加いただき、太田総合病院を知っていただく取り組みを続けております。屋外では、消防、警察、



自衛隊などの協力を得て、車両の展示や乗車体験など、子供たちが楽しみながら、防災、医療を考える機会になったことと思います。また、交通事故車両の展示とシートベルトの重要性について、当院の篠原医師が説明しました。

今年は、「ココラジ」とコラボし太田看護学校から発信していただきました。このほか「福島民友」とのコラボとして「新聞づくり体験」も企画され、医療と防災、健康と安心を共に考える、素晴らしい一日を過ごすことが出来ました。さらに、今年初めて「クラウドファンディング」による救急車購入を進めました。こうした取り組みも、医療を地域とともに考えていくこと、太田総合病院が地域を支え、そして地域に支えられる病院であることを、明確なメッセージとしてお届けするために必要であると考え、実施いたしました。結果は、予想以上に、応援のお言葉とともに、寄付をいただき、目標の1000万円を達成することが出来

ました。このような、取り組みは、院内で働く多くのスタッフにとっても、「私たちは応援していただいている」ことを実感できるため、すすめて本当に良かったと感じています。

来年度の診療報酬改定はいかに？医療を取り巻く環境は依然として厳しく、経営的にも容易ではありません。今はどこも経営が厳しい状況にあります。太田総合病院も苦しい経営が続いています。苦しいからこそ、医療の原点に立ち返り、地域医療のために病院が丸となって進む必要を感じています。直接収益につながらないことでも、患者様のために、地域のためにできること、将来ある子供たちのためにできることを続けてまいります。地域から信頼される病院、なくてはならない病院になるために、これからも、全職員で創意工夫していこうと思っています。最後になりますが、急性期病院の病院長として、地域と共に歩む中で実感している課題や、優先的に取り組むべき施策について、福島県病院協会の皆様と共有し、解決に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。今後とも、皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



病院協会監事に就任して

二本松病院

院長 鈴木 眞 一

昨年、福島県病院協会の「監事」に拝命いたしました。平成6年4月から、JCHO 二本松病院院長を拝命し、前任の六角裕一先生（現名誉院長）からの引き継ぎで、六角先生がお勤めになられていた病院協会のポジションを仰せつかったものと思います。私自身の資質や今までの病院協会に対する活動が評価されている訳でもない中で、指名をいただき大変光栄に感じるとともに恐縮しております。私自身は大学生生活が長かったもので、今まで病院協会というと、むしろ支援、協力をいただく立場であって、協会に感謝の言葉しかありませんでした。今後は立場が変わり、病院協会のしかも監事というとても重要な立場をいただき身の引き締まる思いです。私も過去にいくつかの社団法人（学会がほとんどです）の「監事」を拝命したことがあり、現在でも一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会、東北骨代謝骨粗鬆症研究会などの監事を務めております。法人の監事の業務は一般的に、法人の財産状況や理事の業務執行が法令・定款に従って適正に行われているかを監査する役員とされていますが、私自身医療関係者としての経験年数が多かったことを一つの経験として、本協会の皆様とお付き合いできるものと考えております。

震災後は福島県災害医療調整医監を拝命し県や医師会と連日仕事をさせていただきましたが、病院協会もその一つでありました。また福島県県民健康調査の「甲状腺検査」を開始した際には医師会、病院協会からの支援・協力も感謝申し上げます。前原前会長の時代には、検診バスの寄付にも尽力していただき、また検討委員会では病院協会からの代表の委員からも福島県の医療関係者としての貴重なご意見をいただき、今でも感謝しております。

本協会の佐藤会長をはじめ執行部の皆様、事務局の皆様のお役に立つよう微力ながら尽力したいと思います。

JCHO 二本松病院はまさに地域医療に貢献しなければならない病院ですが、JCHO 本部からの管理と、私ども福島県での医師会とともに病院協会そして福島県立医科大学とさまざまな形で協力や交流が必要です。病院では附属老健施設長や健診センター長も併任でさまざまな医療を担当しなければならず、この年から新たな気持ちで働いております。やや遅い参加で恐縮ですが、今後とも、本協会の発展に尽くすつもりですのでどうかよろしくお願い申し上げます。

◇◇◇◇ 講座紹介 ◇◇◇◇

福島県立医科大学小児科学講座

教授 郷 勇 人

昨年、令和6年7月1日付で、小児科学教授を拝命しました郷勇人と申します。福島県立医科大学小児科学講座の紹介をする前に、私自身の紹介もしたいと思います。

私は、福島市生まれ、福島市育ちで、小学生の頃はリトルリーグ、サッカー、水泳、ソフトボール、中学生からは硬式テニス、軟式テニスと多くのスポーツを経験しました。2001年に福島県立医科大学を卒業し、当時、鈴木仁教授が主宰していた本学の小児学講座に入局後、米国での2年間の留学を除き、県内の関連病院または医大病院で勤務してきました。関連病院は、国立郡山病院（現在は、国立福島病院）、寿泉堂綜合病院、竹田綜合病院で研修し、小児科専門医取得後、大学病院に戻り、サブスペシャリティとして新生児グループに所属しました。2012年に博士号を取得後、Children's Hospital of Philadelphia（通称 CHOP と言います）に Phyllis Denery 研究室に留学しました。Phyllis は、ハイチ出身の新生児科医師で、他のラボメンバーは、中国、アフリカ、スリランカ、インド、日本と多国籍なラボで、非常に充実した留学生活を送りました（写真1）。新生仔マウスは成獣に比べ、酸素に耐性があることが知られ、Denery 研究室では、そのメカニズムについて、酸化ストレスに関わる HO-1 や時計遺伝子などに着目し研究していました。CHOP での私の研究は、高濃度酸素曝露したマウスを用いて新生児慢性肺疾患のモデルマウスを作成し、ヘムオキシゲナーゼ-1（HO-1）に関わるマイクロ RNA を同定するというものでした。2014年に大学に戻り、2015年に、西ノ内病院の新生児室長を務め、2016年に再び大学に戻り、現在に至ります。それでは、当講座の紹介をしたいと思います。



写真1：CHOP 留学中のラボメンバー：筆者の左が Phyllis Denery

【講座の歴史】

当講座は1951年開講以来、70年以上続く伝統があります。本学で学ぶ学生や、附属病院で研鑽を積む研修医がよりよい小児医療を学べるよう熱意をもって教育を行っています。また、福島県のこども達が安心して最良の医療を受けられるよう、各領域の専門医が協力して福島県全域の小児医療を担う体制の構築に努め、産科や小児腫瘍内科、小児外科などの各関連科や、県内の関連病院と密接に連携して診療にあたっています。

【教 育】

医学生、若手医師の教育では、こどもたちの命を救う小児医療の素晴らしさを伝え、患者さんのための医療を実践することへの理解を深められるよう取り組んでいます。

大学病院及び県内関連病院における研修では、小児科学の幅広い分野をカバーできる小児科医として育成することを基本とします。小児科専門医を取得した後は、さらに専門分野を専攻し、小児循環器専門医、小児神経専門医、臨床遺伝専門医、日本集中治療学会専門医などを育成することで、福島県の小児医療のさらなる質の向上を目指しています。

【研 究】

新生児疾患や感染症、炎症性疾患の病態解明、治療法開発に関する研究を主なテーマとし、精力的に基礎・臨床研究を行っております。また、エコチル研究、県民健康調査などの疫学研究にも取り組んでおります。その他、循環器疾患、神経疾患、腫瘍性疾患、腎疾患などの治療法の研究も活発に行い、定期的に小児科全体のリサーチカンファランスを行っています。

【診 療】

現在の小児科医は、新生児、循環器、小児救急、感染症などの急性疾患、神経・発達、血液・腫瘍、免疫・アレルギー、腎泌尿器、リウマチ、代謝、内分泌、消化器やこどものこころなどの慢性疾患の診療、さらには予防接種や保健指導に至るまで多岐に渡って診療する力が求められます。当講座では、新生児、循環器、腎臓・神経、感染症、集中治療のグループがありますが、今後は、内分泌・代謝、免疫・アレルギー、消化管などの新たな診療グループを加えていきたいと思えます。

また、福島県は、3番目に広い県であり、広範囲の医療圏をカバーする必要があります。県内の小児医療を充実させるためには、大学での小児医療の充実に加えて、県内の各病院間の連携、そして小児科医の増員が不可欠です。小児科医の増員のためには、知識・診療技術の各グループへの伝達と継承、さらなる論文の発信と大学院や国内外の留学を斡旋し、臨床・研究に従事して、これまで以上に自分達が豊かになるような生活の実現が必須と考えます。したがって、福島県の小児科医師のそれぞれが、たがいの生活基盤、そして抱える問題を共有、理解しながら、楽しく働ける環境整備が必要です。

そこで、「福島県で小児科医師全員が楽しく働けるプロジェクト」を立ち上げました。

福島県内の部長職から若手の小児科医まで幅広い年齢層で構成し、産休や育児をしている医師でも指導医として働けるライフプラン、リクルートやシニア世代の働き口の斡旋、役職の確保、ロールモデルやメンターの育成など福島県で働く小児科医のより良い労働環境を築くプロジェクトです。現在、星総合病院小児科の増山郁先生、太田西ノ内病院小児科の進藤孝洋先生、福島県立医科大学小児腫瘍内科の藁谷朋子先生、当講座 PICU の渡部真裕先生らが中心となって、このプロジェクトを進めています。

最後になりますが、少子化が進む中でも、一人一人のこども達をケアする小児科医の役割は多く、専攻医をはじめ、輪番や当直に当たっているスタッフにおいては、緊急入院の対応での負担も大きいのが現状です。小児科の抱える課題は多くありますが、県内の基幹病院と密接な連携をとり、診療が円滑に移行できるよう各基幹病院との連携を強化し、最適な医療を迅速に提供できるよう、スタッフ一丸となって、県内の小児医療をさらに発展させたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



写真2：現在の福島県立医科大学小児科学講座スタッフ



福島県立医科大学眼科学講座のご紹介

福島県立医科大学眼科学講座

主任教授 向 井 亮

1. 講座主任教授挨拶

このたび2025年6月より、福島県立医科大学眼科学講座の教授を拝命いたしました、向井 亮でございます。伝統と責任を併せ持つ本講座をお預かりすることとなり、身の引き締まる思いとともに、その重責を深く受け止めております。

福島県立医科大学眼科学講座は、昭和19年の福島県立女子医学専門学校設立と同時に開講され、以来80余年にわたり、福島県の眼科医療と人材育成の中心として歩みを重ねてまいりました。長年にわたり築かれてきた診療・教育・研究の伝統を礎としながら、近年では特に黄斑・網膜・硝子体疾患の分野において、診断技術および治療技術の大幅な進歩を遂げております。現在では、県内を中心とした30を超える関連病院との緊密な連携体制のもと、福島県全域の眼科医療を支える拠点として機能しております。

私自身は石川県に生まれ、小学6年生から高校3年生までを横浜で過ごしました。その後、京都大学薬学部に進学し、群馬大学医学部を卒業後、20年間にわたり群馬大学医学部眼科学講座に在籍してまいりました。2022年より福島県立医科大学眼科に勤務し、福島の地で3年目を迎えております。

福島に赴任してから、浜通りに三度、会津地方に一度足を運ぶ機会がありましたが、日々の生活を通して、中通りの風土や人の温かさを少しずつ実感するようになりました。春には花見山公園を訪れ、閉園ぎりぎりまで園内を散策しながら、桜、レンギョウ、菜の花が織りなす福島ならではの春の美しさに触れました。これからも、福島の魅力の一つひとつを発見し、この地への理解と愛着を深めていきたいと考えております。

福島県立医科大学は、2011年の東日本大震災以降、災害医療および被ばく医療の中核として重要な役割を担ってまいりました。とりわけ浜通り・双葉地区における中核医療機関の整備は、地域復興に不可欠な課題であり、高齢者の視機能維持や、長期避難に伴う眼疾患の増加への対応は、福島における重要な医療課題であると認識しております。当眼科学講座もこれらの課題に積極的に関与し、今後も継続的に力を注いでまいります。

また、会津地方の医療圏においても、高齢化・過疎化という構造的課題に直面する中、中核病院への眼科常勤医師の配置に加え、送迎システムの工夫や地域全体を視野に入れた医療体制の構築、さらには次世代の医療人育成への支援を通じて、創意工夫をもって貢献していきたいと考えております。

今後は、福島県の眼科医療を守り、育て、次の世代へとつなぐとともに、眼科学の発展にも寄与できるよう、臨床・教育・研究のすべてにおいて全力で取り組む所存です。引き続き、皆様の温かいご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2. 講座の歴史

眼科学教室の歴史は昭和19年の福島女子医専門学校時以来で、初代清水光太教授（昭19-昭25）、第2代梶浦睦雄教授（昭26-昭54）、第3代加藤桂一郎教授（昭54-平14）、第4代飯田知弘教授（平15-平24）、第5代石龍鉄樹教授（平24-令7）の5人の教授により運営されてきました。教室の研究テーマは眼生理光学から始まり、近年では網膜硝子体、特に加齢黄斑変性における画像解析からの病態生理の研究へとシフトしてきました。

3. 教室の活動

診療

当科は、福島県の眼科医療の中核を担う大学病院眼科として、眼科学の全分野にわたり高い専門性と安全性を両立した臨床診療を展開しております。地域の基幹医療機関としての責務を果たすべく、日常診療から高度専門医療まで、幅広いニーズに応えられる診療体制を構築しています。

外来診療においては、網膜硝子体疾患を中心に、緑内障、白内障、角膜疾患、小児眼科、眼腫瘍外来、眼付属器疾患、神経眼科、コンタクトレンズ外来など、眼科全領域を網羅した専門外来を有し、月曜日から金曜日まで連日外来診療を行っています。県内各地域はもとより、県外からの紹介患者も積極的に受け入れ、疾患の重症度や専門性に応じた適切な診療を提供しております。

手術治療においても当科は高い実績を有しており、網膜硝子体手術を中核として、緑内障手術、白内障手術、角膜手術、斜視手術をはじめ、眼瞼・眼窩・眼内腫瘍に対する手術、眼形成手術、涙器手術など、多岐にわたる外科的治療を実施しています。機能温存と低侵襲を重視した手術戦略により、患者様の Quality of Vision (QOV) および Quality of Life (QOL) の向上に貢献することを目標としています。

現在、当科は福島県立医科大学病院2階に設置された眼科診療ブースにおいて、医師19名、視能訓練士11名、看護師6名、看護助手1名という充実した体制で外来診療を運営しております。医師のみならず、視能訓練士・看護師・看護助手が緊密に連携する多職種協働体制のもと、診療の効率化と質の向上を両立し、患者様にとって安心・安全で信頼できる医療環境の提供に努めています。

当科は今後も、福島県全体の眼科医療を支える拠点として、専門性の深化と診療体制の強化を進めながら、地域に根ざし、患者様に寄り添う眼科医療の実現を目指してまいります。

研究

当科では、網膜硝子体疾患を研究の中核に据え、臨床研究と基礎研究の両輪による学術活動を精力的に展開しております。なかでも加齢黄斑変性（AMD）に関しては、疾患の病態解明から治療戦略の最適化、さらには治療薬に伴う副作用の検討に至るまで、臨床現場に直結した研究テーマを継続的に追究しています。これらの臨床研究は、光干渉断層計（OCT）や OCT 血管断層撮影（OCTA）をはじめとする高度な画像診断学的解析や、体系化されたカルテレビューの方法論を基盤として進めており、実臨床から得られるリアルワールドデータを最大限に活用している点が大きな特徴です。

また当科は、日本大学、杏林大学、東京女子医科大学、琉球大学とともに、Japan Age-related Macular Degeneration Consortium（JARC）を組織し、加齢黄斑変性に関する多施設共同臨床研究を推進しています。本コンソーシアムを通じて得られた成果は、国内外の学会で積極的に発表するとともに、国際的な学術誌への報告を行い、日本発のエビデンス創出に貢献しています。

さらに基礎研究分野においては、マウスモデルを用いた加齢黄斑変性の病態解明や、視神経炎モデルマウスにおけるマイクログリア活性化の解析など、炎症・免疫と視機能障害の関連に着目した研究を本年度より本格的に開始すべく準備を進めております。臨床で得られた疑問を基礎研究へと昇華し、その成果を再び臨床へ還元する「トランスレーショナルリサーチ」を重視している点も、当科研究体制の強みです。

一方で、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、神経眼科疾患、斜視・弱視、眼腫瘍、緑内障といった幅広い分野においても臨床研究を展開しており、症例報告を含め、多数の研究成果を学会および学術誌に発信しています。網膜硝子体を核としながらも、眼科全領域を俯瞰する研究力を有していることは、当科の大きな特色です。

学会活動においては、国内では日本眼科学会、眼循環学会、緑内障学会、神経眼科学会、日本臨床眼科学会、網膜硝子体学会、眼腫瘍学会、眼科手術学会などに継続的に参加・発表を行っています。海外学会としては、Association for Research in Vision and Ophthalmology（ARVO：米国・デンバー）および World Ophthalmology Congress（WOC：チェコ・プラハ）への参加を予定しており、国際的な視点からの情報発信と研究交流にも力を注いでいます。

当科は今後も、臨床と基礎を融合した研究活動を通じて、視覚障害の克服に挑み続けるとともに、福島から世界へ向けた眼科医学の発展に貢献してまいります。

教育

当科では、医学部教育から大学院教育までを一貫して担い、体系的かつ実践的な眼科教育を展開しております。医学部3年生に対する系統講義、4年生へのベッドサイドラーニング、5年生への基礎・上級講義、6年生への総括講義まで、各学年の到達目標に応じた教育プログラムを構築し、段階的に理解を深められる体制を整えております。

医学部3年生への講義では、眼科学全般を網羅する系統講義を行い、4年生以降の臨

床実習に円滑に移行できるよう、解剖・生理から主要疾患、診断・治療の基本までを丁寧整理しています。加えて、国家試験を見据えた知識の整理にとどまらず、画像診断や新規治療の進歩、視覚を守る医療の社会的意義など、眼科学の未来像を見据えた講義も重視しております。

4年生のベッドサイドラーニングでは、「実学」を重視した教育を柱とし、視力・眼圧測定などの基本的検査手技、病棟患者の診察、外来実習、手術見学、さらに緊急性・重要性の高い眼疾患に関する講義を組み合わせで行っています。眼科疾患の特徴や治療上の注意点に加え、顕微鏡下での縫合体験なども取り入れ、将来どの診療科に進んだとしても必ず役立つ「目の知識と視点」を身につけていただくことを目標としています。

また当科の実習では、知識や手技の習得にとどまらず、学生自身が実習を通して疑問点や課題を見出し、自ら考え、議論する姿勢を重視しています。教員は一方的に教える立場ではなく、学生とともに考え、臨床現場での判断プロセスを共有することを意識しながら、きめ細やかな指導を行っています。

さらに、眼科学講座として大学院コースを開設し、臨床研究・基礎研究の双方において研究活動を推進しています。臨床現場から生まれる疑問を研究へと発展させ、得られた知見を再び診療・教育へ還元することで、教育・研究・診療が有機的に循環する環境を整えております。

当科は今後も、次世代の医師に「視覚を守る責任と魅力」を伝え、臨床能力と探究心を兼ね備えた人材育成を通じて、福島県、そして日本の眼科医療の発展に貢献してまいります。

地域への貢献

当科は、福島県立医科大学眼科学講座として、県内全域からの紹介患者を積極的に受け入れると同時に、浜通り・中通り・会津の各医療圏における重要拠点病院へ医師を派遣し、福島県全体の眼科医療を支える中核的役割を担っております。大学病院としての高度専門医療と、地域に根ざした医療提供体制を両立させることが、当科の大きな特徴です。

2024年度には2,188件の紹介患者をお受けし、県北地域からの紹介が約50%を占める一方、会津および浜通り地域からもそれぞれ約10%の患者さんにご来院いただきました。これは、地理的条件を越えて当科が広く信頼され、県内各地から高度眼科医療の受け皿として機能していることを示すものと考えております。

中通り地域では藤田病院、保原中央クリニック、福島赤十字病院、大原綜合病院、福島済生会病院、寿泉堂病院、西ノ内病院、星綜合病院、白河厚生病院と、浜通り地域では南相馬市立綜合病院、公立相馬綜合病院、福島労災病院、いわき医療センター、塙厚生病院と、さらに会津地域では竹田綜合病院、会津医療センター、南会津病院など、多くの医療機関と密接な連携体制を構築しております。

これらの連携病院とは、紹介・逆紹介を円滑に行いながら、急性期から慢性期、専門

治療から地域フォローアップまで切れ目のない診療体制を整えております。当科での高度専門治療と、地域医療機関での継続的診療を有機的に結びつけることで、患者さん一人ひとりの「視機能」と「生活の質」を長期にわたり守ることを目指しています。

今後も当科は、県内各地域の医療機関と地域一丸となって協働しながら、福島県における眼科医療の質の向上、人材育成、そして次世代へつなげる持続可能な医療体制の構築に貢献してまいります。

今後の抱負

福島という地に身を置き、日々の診療と教育・研究に携わるなかで、この地が震災という未曾有の困難と真正面から向き合いながら、今なお歩みを続けている土地であるという事実を、改めて強く実感しております。その歴史と現実の中で医療に携わることの意味と責任の重さを、日々噛みしめております。

そのような福島において、福島県立医科大学眼科学講座が、県民の皆様にとって「灯」となれる存在であり続けること——それが私たちに課せられた使命であると考えています。微力ではございますが、全身全霊をもって講座運営にあたり、福島県民の皆様に寄り添い、愛と奉仕の心を大切にした眼科医療を提供できるよう、日々努力を重ねてまいります。

また診療にとどまらず、福島から世界に発信できる研究成果を生み出すこと、そして福島の未来を医療の力で支える人材を育成することも、大学病院眼科としての重要な役割です。臨床・研究・教育の三位一体の取り組みを通じて、この地に根ざしながらも、常に世界を見据えた眼科学講座でありたいと願っております。

今後とも、諸先生方ならびに関係各位の皆様のご指導とご支援を賜りながら、福島県のお眼科医療の発展に全力で貢献してまいる所存です。何卒変わらぬご厚誼を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。





弁 護 士 渡 辺 健 寿
(渡辺健寿法律事務所)
住 所 福島市宮下町7番16号
T E L (024) 533-6145
F A X (024) 533-6146

患者以外の第三者からの診療記録開示請求

【質 問】

当院の入院患者の長男から患者である父の診療記録の開示を請求されました。

その患者の身の回りの世話や入院時の手続きの補助はもっぱら長女がしており、長女の面会状況や父と長男との関係などが看護記録に記載されています。長女と長男とは折り合いが悪い様子であり、当院としては長男に診療記録を開示することによって長男と長女間の紛争のもととなるのではないかと心配しています。

当院は長男に対し診療記録を開示しなければならないのでしょうか。

【回 答】

1 診療情報開示に関する原則

医療機関は、患者に対し、診療の過程で患者の身体状況、病状、治療等について知り得た情報（診療情報）、具体的には診療録、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、レントゲン写真、CT、MRIなどの画像、診療情報提供書、退院した患者にかかる入院期間中の診療経過の要約その他診療の過程で患者の身体状況、病状、治療等について作成、記録または保存された書類、画像等の記録を積極的に提供することにより、患者が疾病と診療内容を十分理解し、医療機関と患者とが共同して疾病を克服するなど、医療機関と患者とのより良い信頼関係を構築することが可能となるものであり、診療情報提供は現代の医療において重要な意義をもつものです。

厚生労働省は、「診療情報の提供等に関する指針」を策定しており、同指針は厚生労働省のウェブページ（<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/06/s0623-15m.html>）に公開されています。

同指針によれば、医療機関は患者本人との関係では、診療記録の開示請求があれば原則としてこれに応じなければならないとされています（指針7項(1)）。一方で、患者以外の者に対しては、患者の同意を得ずに診療情報の提供を行うことは医療機関としての守秘義務に反し、法律上の規定がある場合を除き認められないとしています（指針4項）。

2 患者の親族ほか第三者からの診療情報開示請求について

(1) 患者以外の者からの診療情報開示請求

同指針は本人の同意がある場合のほか、①患者に法定代理人がいる場合には、法定代理人、②診療契約に関する代理権が付与されている任意後見人、③患者本人から代理権を与えられた親族及びこれに準ずる者、④患者が成人でも判断能力に疑義がある場合は、現実には患者の世話をしている親族及びこれに準ずる者は患者に代わって開示を求めることができるものとしています（指針7項(2)）。

なお、同指針は、患者が死亡した場合について、患者の配偶者、子、父母及びこれに準ずる者（これらの者に法定代理人がいる場合の法定代理人を含む。）は診療記録の開示を求めることができるとし、これらの者から開示請求があった場合、医療機関は遅滞なく患者の死亡に至るまでの診療経過、死亡原因等についての診療情報を提供しなければならないとしており、遺族に対する診療情報の提供に当たっては、患者本人の生前の意思、名誉等を十分に尊重することを医療機関に求めています（指針9項）。

(2) 診療情報開示請求を拒否できる場合

同指針は、医療機関が診療情報の開示を求められた場合に、診療情報提供の全部又は一部を提供しないことができる場合として二つの場合を挙げています。

一つ目は、診療情報の提供が、第三者の利益を害するおそれがあるときです（指針8項(1)）。

これは、患者の状況等について、家族や患者の関係者が医療機関に情報提供を行っている場合に、これらの者の同意を得ずに患者自身に家族や患者の関係者が医療機関に提供した当該情報を提供することにより、患者と家族や患者の関係者との人間関係が悪化するなど、これらの者の利益を害するおそれがある場合が想定されています。

たとえば、診療記録に家族間のトラブルやDVに関する記載があり、開示により関係者の安全が脅かされる可能性があるような場合です。

二つ目は、診療情報の提供が、患者本人の心身の状況を著しく損なうおそれがあるときです（指針8項(2)）。

これは、症状や予後、治療経過等について患者に対して十分な説明をしたとしても、説明の内容が患者本人に重大な心理的影響を与え、その後の治療効果等に悪影響を及ぼす場合が想定されています。

たとえば、患者自身が深刻な精神状態にあり、末期がんの告知によって患者が強いショックを受け症状の悪化や自殺のリスクが懸念されるような場合です。

指針8項は診療情報を本人から開示請求があった場合を念頭に置いているものと解されますが、診療情報が第三者からの開示請求の場合であっても、それにより(1)第三者の利益を害するおそれがあるとき、および(2)患者本人の心身の状況を著しく損なうおそれがあるときには同指針の趣旨から診療情報の開示を拒否できるものと解されます。

診療情報開示を拒否できる場合についての指針を個々の事例に適用するにあたって

は個別具体的に慎重に判断することが必要です。

また、同指針は、医療機関が診療記録の開示の申立ての全部又は一部を拒む場合には、原則として、申立人に対して文書によりその理由を示し、不開示とすることに対する苦情処理の体制についても併せて説明することを求めています（指針8項）。

(3) 本件の場合

本件の場合、長男の診療記録開示請求に応じる前提として、長男が当該患者本人の同意を得ていることが必要となるので、当院としてはまず同意の有無を確認する必要があります。

長男が当該患者の同意を得ていると確認できた場合でも、当院が診療情報を開示すべきか否かについては、当該患者本人、長女と長男からの聞き取りを行い、その結果長男に診療情報を開示することで長男長女間の折り合いがさらに悪化し、長女やひいては当該患者の身の安全が脅かされる危険性が認められたり、そこまでは至らなくとも親族間の紛争が原因で当該患者の療養に悪影響を与える蓋然性が相当程度認められるというような場合には、前述の指針8項を根拠に開示を拒否することが許容され得るものと解されます。

3 診療情報開示請求について規程の整備

上記指針において、医療機関は、診療記録の開示手続等を定めた診療情報の提供に関する規程を整備し、苦情処理体制も含めて、院内掲示を行うなど、患者に対しての周知徹底を図ることが求められています（指針12項）。

令和6年度会務報告について（令和6年4月～令和7年3月）

○会 議 等

4月23日(火) 【第87回東電原発事故被災病院協議会】

○会 場 福島市 福島県医師会館 1階「大会議室」

○時 間 14:00～

○協議事項（座長 前原和平代表）

- ・各病院からの現況報告について

○来 賓

- ・復興庁福島復興局 湯田 友義 参事官
- ・文部科学省研究開発局 原子力損害賠償対策室
本橋 隆行 次長
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
岡 耕一郎 室長補佐
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
石原 寛人 医師確保対策専門官
- ・経済産業省資源エネルギー庁 原子力損害対応室
山本 茂 企画調整官
- ・福島県企画調整部避難地域復興局 原子力損害対策課
伊藤 悠 主査
- ・福島県保健福祉部地域医療課 星 嘉紀 主幹
- ・福島県保健福祉部地域医療課 菅野 絵梨 副主査
- ・福島県医師会 八巻 秀一 事務局長
- ・衆議院議員金子恵美福島事務所 中川誠一郎 秘書

○出席者 来 賓 10名

会 員 8病院10名（会場）

事務局 2名

4月26日(金) 【令和6年度第1回役員会】

○会 場 福島市 杉妻会館 4階「牡丹」

○時 間 15:00～

○議 題

- ・令和5年度事業報告について
- ・令和5年度収支決算報告について
- ・令和6年度事業計画（案）について
- ・令和6年度収支予算書（案）について

- 令和6年度定期総会（案）について
- 役員改選（案）について

○出席者 佐藤勝彦会長、佐久間 啓、本田雅人、新谷史明副会長、
会田征彦、近藤祐一郎、菅野智行、高萩周作、
緑川靖彦常任理事、大木進司、大田雅嗣、佐久間 潤、
鈴木恭一、星野 豊、渡辺直彦理事、六角裕一監事、
事務局2名

5月7日(火) 【令和6年度「ダメ。ゼッタイ。」福島県普及運動実行委員会（書面）】

○議 題

- 令和5年度事業報告及び収支決算報告等について
- 令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）等について
- 役員改選（案）について

○決議者 佐藤勝彦会長

5月13日(月) 【令和5年度会計監査】

○会 場 二本松市 二本松病院

○時 間 14：00～

○出席者 六角裕一監事、石堂順子係長

5月15日(水) 【令和5年度会計監査】

○会 場 郡山市 坪井病院

○時 間 13：00～

○出席者 原口秀司監事、石堂順子係長

5月17日(金) 【令和6年度定期総会】

○会 場 福島市 福島県医師会館 1階「大会議室」

○時 間 15：00～

○議 題

- 令和5年度事業報告について
- 令和5年度収支決算報告について
- 令和6年度事業計画（案）について
- 令和6年度収支予算書（案）について
- 役員改選について

○出席者（会員数：114会員）

- 出席30会員、委任状提出80会員、欠席4会員

6月3日(月) 【令和6年度福島県公衆衛生協会 第1回役員会】

○会 場 福島市 杉妻会館3階「石楠花」

○時 間 14：00～

○議 題

- 令和5年度事業報告及び収支決算報告について

- ・令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）について
- ・福島県公衆衛生協会役員の改選について

○出席者 佐藤勝彦会長

6月4日(火) 【公益財団法人福島県臓器移植推進財団理事会】

○開催方式 Web 開催

○時間 18:00～

○議題

- ・令和5年度事業報告について
- ・令和5年度収支決算報告について
- ・第12回定時評議員会の開催について

○出席者 佐藤勝彦会長

6月25日(火) 【第88回東電原発事故被災病院協議会】

○会場 福島市 福島県医師会館1階「大会議室」

○時間 14:00～

○協議事項（座長 前原和平代表）

- ・各病院からの現況報告について

○来賓

- ・復興庁福島復興局 湯田 友義 参事官
- ・文部科学省研究開発局 原子力損害賠償対策室 本橋 隆行 次長
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室 岡 耕一郎 室長補佐
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室 石原 寛人 医師確保対策専門官
- ・経済産業省資源エネルギー庁 原子力損害対応室 山本 茂 企画調整官
- ・福島県企画調整部避難地域復興局 原子力損害対策課 高橋 竜介 副主査
- ・福島県保健福祉部地域医療課 星 嘉紀 主幹
- ・福島県保健福祉部地域医療課 菅野 絵梨 副主査
- ・衆議院議員金子恵美福島事務所 中川誠一郎 秘書
- ・福島県医師会 八巻 秀一 事務局長

○出席者 来賓 10名

会 員 8病院9名

事務局 2名

6月26日(水) 【令和6年度福島県医療福祉情報ネットワーク協議会第1回理事会及び定時代議員会】

○会 場 福島市 福島県医師会館 1 階「大会議室」
○時 間 16：00～（代議員会 1 階大会議室17：00～）
○議 題

- ・入会・退会の承認について
- ・令和5年度事業報告書（案）について
- ・令和5年度決算書（案）について
- ・定時代議員会について
- ・インボイス制度の対応について

○出 席 者 佐藤勝彦会長

6月27日(木) 【令和6年度第1回常任理事会】

○場 所 福島県医師会館 3 階中会議室

○開催方式 Web 会議

○時 間 16：00～

○議 題

- ・令和6年度会務報告について
- ・各構成委員、各委員会における活動内容について
- ・「令和7年度福島県予算編成及び医療政策方針に対する要望事項」について

○出 席 者 佐藤勝彦会長、佐久間 啓、新谷史明、本田雅人副会長、
会田征彦、及川友好、大木進司、菅野智行、近藤祐一郎、
高萩周作、鈴木恭一、土屋貴男常任理事、事務局2名

6月28日(金) 【2024年度第1回ふくしま医療機器産業推進機構評議員会】

○場 所 ふくしま医療機器開発支援センター

○開催方法 Web オンラインハイブリッド形式

○時 間 13：30～

○議 題

- ・2022年度事業報告及び決算報告書の承認について
- ・2022年度事業報告書・決算報告書（案）

○出 席 者 土屋貴男理事（Web 参加）

8月2日(金) 【福島県保健福祉部要望書提出・説明会】

○会 場 福島市 福島県庁西庁舎 福島県保健福祉部

○時 間 11：00

○議 題

- ・令和7年度福島県予算編成及び医療政策方針に対する要望書の提出

○出 席 者 佐藤勝彦会長、渋谷良一事務局長

8月2日(金) 【第52回「県民健康調査」検討委員会】

○会 場 福島市 ウェディングエルティ 1 階「スクエア北」

○時 間 13:30～

○議 題

- ・基本調査について
- ・こころの健康度・生活習慣に関する調査について
- ・甲状腺調査について

○出席者 佐藤勝彦会長

8月2日(金) 【令和6年度総務委員会】

○開催方法 Web 会議

○時 間 16:00～

○議 題

- ・令和6年度総務委員会の活動について
- ・令和6年度医師の働き方改革に係るアンケート調査について
- ・準会員・賛助会員の募集について

○出席者 佐久間 啓副会長、高萩周作常任理事、飯塚 卓常任理事、
鈴木真一監事、渋谷良一事務局長、石堂順子係長

8月6日(火) 【令和6年度経営管理委員会】

○開催方法 Web 会議

○時 間 16:00～

○議 題

- ・令和6年度経営管理委員会の活動について
- ・令和6年度経営管理研修会について

○出席者 佐久間 啓副会長、鈴木恭一常任理事、近藤祐一郎常任理事、
菅野智行常任理事、横山 斉理事、渋谷良一事務局長、
石堂順子係長

8月7日(水) 【令和6年度第1回福島県医療勤務医環境改善支援センター運営協議会】

○会 場 福島市 福島県医師会館1階 「大会議室」

○時 間 15:30～

○議 題

- ・令和6年度福島県医療勤務医環境改善支援センターの運営について
- ・医師の働き方改革の状況等について

○出席者 渡辺直彦理事

8月9日(金) 【福島県感染症対策連絡協議会計画策定部会】

○会 場 福島県庁自治会館3階大会議室 (Web 併用)

○時 間 15:30～

○議 題

- ・感染症に基づく医療措置協定の締結状況について
- ・新型インフルエンザ等再作政府行動計画の改定について

- ・県行動計画の改定に向けた今後の進め方について

○出席者 近藤祐一郎常任理事

8月20日(火) 【第89回東電原発事故被災病院協議会】

○会場 福島市 福島県医師会館1階「大会議室」

○時間 14:00～

○協議事項 (座長 前原和平代表)

- ・各病院からの現況報告について

○来賓

- ・復興庁福島復興局 塩手 能景 次長
- ・復興庁福島復興局 湯田 友義 参事官
- ・文部科学省研究開発局 原子力損害賠償対策室
本橋 隆行 次長
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
岡 耕一郎 室長補佐
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
石原 寛人 医師確保対策専門官
- ・経済産業省資源エネルギー庁 原子力損害対応室
山本 茂 企画調整官
- ・福島県企画調整部避難地域復興局 原子力損害対策課
高橋 竜介 主査
- ・福島県保健福祉部地域医療課 星 嘉紀 主幹
- ・福島県保健福祉部地域医療課 半田 亮人 副主査
- ・福島県医師会 八巻 秀一 事務局長
- ・参議院議員森まさ子福島事務所 佐藤 直毅 秘書
- ・衆議院議員金子恵美福島事務所 中川誠一郎 秘書

○出席者 来賓 12名

会員 7病院8名

事務局 2名

8月21日(水) 【福島県医師会災害時医療対策協議会 (仮称)】

○会場 福島県医師会館1階 (web 併用)

○時間 16:00～

○議題

- ・平時からの情報共有と組織づくりについて
- ・災害発生時の対応に関する意見交換について

○出席者 佐藤勝彦会長

8月23日(金) 【令和6年度第1回福島県地域医療対策協議会（書面開催）】

○議 題

- ・2025年度開始の専門犬種プログラムに係る意見照会

○決 議 者 佐藤勝彦会長、新谷史明副会長、大木進司常任理事

8月30日(金) 【令和6年度福島県保健衛生学会世話人会及び福島県公衆衛生協会第2回役員会】

○会 場 福島市 テルサホール「あづま」

○時 間 12:30～

○議 題

- ・令和7年度福島県保健衛生学会の担当講座について
- ・令和6年度健康ふくしま21推進県民表彰における公衆衛生事業功労者の表彰について

○出 席 者 佐藤勝彦会長

9月2日(月) 【令和6年度第1回医療研修委員会】

○開催方法 Web 会議

○時 間 16:00～

○議 題

- ・令和6年度医療研修委員会の活動について
- ・令和6年度医療研修会について
- ・令和6年度看護補助者研修会について

○出 席 者 本田雅人副会長、及川友好常任理事、土屋貴男常任理事、
斎藤 清理事、松本昭憲監事、事務局2名

9月6日(金) 【福島県議会各派 各種団体要望聴取会】

○会 場 福島市 福島県庁本庁舎 福島県議会各派事務所

○時 間 10:00（自民党）

○議 題

- ・令和7年度福島県予算編成及び医療政策方針に対する要望書の提出

○出席者 佐藤勝彦会長、渋谷良一事務局長

9月6日(金) 【令和6年度第1回救急医療委員会】

○開催方法 Web 会議

○時 間 16:00～

○議 題

- ・令和6年度救急医療委員会の活動について
- ・令和6年度救急医療研修会について

○出 席 者 新谷史明副会長、会田征彦委員長、大木進司常任理事、
高橋皇基、前田佳一郎理事、事務局2名

9月11日(水) 【福島県医療審議会法人部会】

○会 場 福島市 杉妻会館 3階 石楠花
(Web オンラインハイブリッド)

○時 間 15:00～

○議 題

- ・医療法人の設立及び解散について

○出席者 新谷史明副会長

9月13日(金) 【令和6年度第1回広報委員会】

○開催方法 Web 会議

○時 間 16:00～

○議 題

- ・令和6年度広報活動について
- ・令和6年度病院協会会報について
- ・令和6年度病院協会ニュースについて

○出席者 新谷史明副会長、渡辺直彦理事、八巻英郎理事、
佐久間 潤理事、星野 豊理事、赤津晋太郎理事、
渋谷良一事務局長、石堂順子係長

9月25日(水) 【福島県病院協会と福島県医師会との意見交換会】

○会 場 「和風レストラン うな萬」

○時 間 18:00～

○出席者 佐藤勝彦会長、新谷史明副会長、本田雅人副会長、
渋谷良一事務局長

10月8日(火) 【令和6年度健康ふくしま21推進県民表彰式における公衆衛生事業功労者の表彰】

○会 場 福島市 福島テルサ1階 FT ホール

○時 間 13:15～

○出席者 佐藤勝彦会長

10月22日(火) 【第90回東電原発事故被災病院協議会 (Web ハイブリッド会議)】

○会 場 福島市 福島県医師会館1階「大会議室」

○時 間 14:00～

○協議事項 (座長 前原和平代表)

- ・各病院からの現況報告について

○来 賓

- ・復興庁福島復興局 湯田 友義 参事官
- ・文部科学省研究開発局 原子力損害賠償対策室 本橋 隆行 次長

- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
岡 耕一郎 室長補佐
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
石原 寛人 医師確保対策専門官
- ・経済産業省資源エネルギー庁 原子力損害対応室
山本 茂 企画調整官
- ・福島県企画調整部避難地域復興局 原子力損害対策課
高橋 竜介 副主査
- ・福島県保健福祉部地域医療課 菅野 絵梨 副主査
- ・福島県医師会 阿部 徹 総務課長
- ・参議院議員森まさ子福島事務所 佐藤 直毅 秘書

○出席者 来賓 9名
会 員 6病院7名
事務局 2名

10月26日(土) 【令和6年度福島県看護職員功労者表彰式】

○会 場 福島県看護会館みらい
○時 間 10:00～
○出席者 佐藤勝彦会長

10月29日(火) 【福島県医療審議会 保健医療計画調整部会】

○開催方法 Web 会議
○時 間 13:15～
○議 題
・第8次福島県医療計画の進捗管理について
○出席者 佐藤勝彦会長

10月29日(火) 【令和6年度第28回看護補助者研修会 (A 日程 大原総合病院)】

○開催方法 Web オンライン
○時 間 13:30～
○参加者 35名
○主催者挨拶 佐藤勝彦会長

11月6日(水) 【令和6年度第1回地域包括ケアシステム推進協議会】

○会 場 郡山市 郡山ビューホテルアネックス (Web 併用)
○時 間 15:00～
○議 題
・第1回福島県在宅医療・介護連携支援センター業務運営会議について
・第1回在宅医療・介護連携支援センター担当者会議について
・訪問診療同行研修事業について
・各団体からの協議事項について

- 出席者 佐藤勝彦会長（Web 参加）
- 11月7日(木) 【令和6年度第28回看護補助者研修会（B 日程 南相馬市立総合病院）】
- 開催方法 Web オンライン
- 時間 13：30～
- 参加者 84名
- 主催者挨拶 及川友好常任理事
- 11月11日(月) 【令和6年度第28回看護補助者研修会（C 日程 寿泉堂総合病院）】
- 開催方法 Web オンライン
- 時間 13：30～
- 参加者 107名
- 主催者挨拶 佐久間 潤理事
- 11月15日(金) 【令和6年度第28回看護補助者研修会（D 日程 枳記念病院）】
- 開催方法 Web オンライン
- 時間 13：30～
- 参加者 81名
- 主催者挨拶 佐藤勝彦会長
- 11月15日(金) 【令和6年度福島県公衆衛生協会第3回役員会】
- 会場 福島県庁西庁舎 7階「717会議室」
- 時間 14：00～
- 議題
- ・喫煙及び受動喫煙防止対策に係る令和7年度の取り組みについて
- 出席者 佐藤勝彦会長
- 11月20日(水) 【第2回福島県感染症対策連絡協議会】
- 会場 福島県庁中町ビル2階大会議室
- 時間 13：30～
- 議題
- ・福島県新型インフルエンザ等対策行動計画の見直しについて
- 出席者 近藤祐一郎常任理事
- 11月26日(火) 【第3回福島県感染症対策連絡協議会】
- 会場 福島県庁本庁舎 5階 正庁
- 時間 13：30～
- 議題
- ・福島県新型インフルエンザ等対策行動計画の見直しについて
- 出席者 近藤祐一郎常任理事
- 11月28日(木) 【福島県訪問看護推進連絡協議会】
- 会場 福島テルサ 3階「しのぶ」
- 時間 14：00～

○議 題

- ・訪問看護の状況について
- ・訪問看護総合支援センターの設置の趣旨、概要

○出 席 者 佐藤勝彦会長

11月29日(金) 【令和6年度「経営管理研修会」(Web 併用ハイブリッド形式)】

○会 場 福島市 福島県医師会館1階「大会議室」

○時 間 16:00～

○講 演

- ・演題 「日本赤十字社の医療事業」
－経営改善への取り組みと地域医療構想－
- ・講師 日本赤十字社業務執行理事
医療事業推進本部長 渡部 洋一 先生
- ・座長 福島県病院協会 鈴木恭一 常任理事

○出 席 者 佐藤勝彦会長 他26名

12月18日(水) 【第4回福島県感染症対策連絡協議会】

○会 場 福島県庁本庁舎 5階 正庁

○時 間 10:30～

○議 題

- ・福島県新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について

○出 席 者 近藤祐一郎常任理事

12月18日(水) 【令和6年度福島県地域医療対策協議会(書面開催)】

○議 題

- ・特定労務管理対象機関の指定について

○決 議 者 佐藤勝彦会長、新谷史明副会長、大木進司常任理事

12月24日(火) 【令和6年度福島県肝炎対策協議会】

○開催方法 Web 会議

○時 間 13:00～

○議 題

- ・肝炎対策事業の実施状況について
- ・令和7年度肝炎対策事業計画(案)について
- ・福島県肝炎対策基本計画及び第8次福島県医療計画における肝炎対策の進捗状況等について

○出 席 者 土屋貴男常任理事

令和7年

1月21日(火) 【第91回東電原発事故被災病院協議会】

○会 場 福島市 福島県医師会館1階「大会議室」

○時 間 14:00～

○協議事項（座長 前原和平代表）

- ・各病院からの現況報告について

○来 賓

- ・復興庁福島復興局 湯田 友義 参事官
- ・文部科学省研究開発局 原子力損害賠償対策室
本橋 隆行 次長
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
岡 耕一郎 室長補佐
- ・厚生労働省医政局地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室
石原 寛人 医師確保対策専門官
- ・経済産業省資源エネルギー庁 原子力損害対応室
山本 茂 企画調整官
- ・福島県企画調整部避難地域復興局 原子力損害対策課
高橋 竜介 主査
- ・福島県保健福祉部地域医療課 星 嘉紀 主幹
- ・福島県保健福祉部地域医療課 菅野 絵梨 副主査
- ・福島県医師会 阿部 徹 総務課長
- ・参議院議員森まさ子福島事務所 佐藤 直毅 秘書
- ・衆議院議員金子恵美福島事務所 中川誠一郎 秘書

○出席者 来 賓 11名

会 員 7 病院 7 名

事務局 2 名

1 月 23 日 (木) 【令和 6 年度県中地域在宅医療・介護連携推進会議及び
令和 6 年度県中地域高齢者福祉施策推進会議】

○会 場 須賀川市 円谷幸吉メモリアルアリーナ 会議室

○時 間 14：00～

○議 題

- ・地域医療介護総合確保促進法に基づく県計画について
- ・第10次福島県高齢者福祉計画・第9次福島県介護保険事業支援計画
の進捗状況等について
- ・地域包括ケアシステムについて
- ・県中地域における認知症対応薬局の推進について
- ・県中地域におけるキビタン健康ネットを活用した医療体制ネット
ワーク事業について

○出席者 土屋貴男常任理事

1月24日(金) 【令和6年度「医療研修会」(Web併用ハイブリッド形式)】

○会 場 福島市 福島県医師会館1階「大会議室」

○時 間 19:00～

○講 演

- ・演題 「病院内における ChatGPT の有効活用と問題点」
- ・講師 近畿大学医学部皮膚科学 主任教授 大塚篤司先生
- ・座長 福島県病院協会 及川友好常任理事

○出 席 者 佐藤勝彦会長 他42名

1月27日(月) 【令和6年度第1回福島県地域医療対策協議会専門部会(書面開催)】

○議 題

- ・令和7年度地域医療支援教員強化事業について
- ・修学資金制度の変更について

○決 議 者 佐藤勝彦会長

1月30日(水) 【福島県立医科大学附属病院長候補者選考会議】

○会 場 福島県立医科大学附属病院 きぼう棟3階病院長室

○時 間 13:00～

○出 席 者 佐藤勝彦会長

1月31日(金) 【令和6年度第4回福島県地域医療対策協議会】

○開催形式 オンライン会議

○時 間 13:30～

○議 題

- ・令和7年度地域医療支援教員強化事業について
- ・修学資金制度の変更について

○出 席 者 佐藤勝彦会長、新谷史明副会長(Web参加)

1月31日(金) 【令和6年度福島県看護職員需給計画策定検討会】

○開催形式 Zoomによるweb会議

○時 間 14:30～

○議 題

- ・次期福島県看護職員需給計画について
- ・令和6年度の事業計画及び実施状況について
- ・令和7年度における看護職員確保施策について

○出 席 者 佐藤勝彦会長(Web参加)

2月5日(水) 【第54回「県民健康調査」検討委員会】

○会 場 福島市 エクセル福島恵比寿2階「さくら」

○時 間 13:30～

○議 題

- ・第23回甲状腺検査評価部会開催報告について

- 健康診査について
- 甲状腺検査について

○出席者 佐藤勝彦会長

2月6日(木) 【令和6年度福島県在宅歯科医療連携室運営会議】

○事業報告資料

- 福島県在宅歯科医療連携室業務報告について
- 令和5年度在宅歯科医療連携室整備業務収支報告について
- 令和7年度福島県在宅歯科医療連携室整備事業 事業計画について

○出席者 星野 豊理事

2月6日(木) 【第5回福島県感染症対策連絡協議会】

○会場 福島県庁北庁舎 2階
危機管理センター災害対策本部会議室

○時間 15:00～

○議題

- 福島県新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について

○出席者 近藤祐一郎常任理事（Web参加）

2月13日(木) 【福島県医療審議会 医療法人部会】

○開催方法 杉妻会館3階 石楠花（Web併用）

○時間 13:30～

○議題

- 医療法人の設立について
- 医療法人の解散について

○出席者 新谷史明副会長

2月25日(火) 【令和6年度第4回福島県救急医療対策協議会】

○会場 福島県庁北庁舎2階 プレスルーム

○時間 15:00～

○議題

- 救急医療対策協議会専門部会の設置について
- 救急車事故について
- 救命救急センター指定に係る関係規定の整備について
- 第8次福島県医療計画（救急医療）評価書（案）について
- 救急電話相談について
- 12誘導心電図伝送システムについて
- 二次・三次救急医療機関体制強化支援事業について

○出席者 鈴木恭一常任理事、

小林辰輔会津中央病院救命救急センター長

小山 敦いわき市医療センター救命救急センター長

2月27日(木) 【令和6年度福島県ドクターヘリ運航調整委員会】

○開催形式 web 会議

○時 間 16:00～

○議 題

- ・ドクターヘリ運航状況について
- ・ドクターヘリ症例検討会の開催状況（令和5年及び6年度）について

○出席者 会田征彦常任理事

3月10日(月) 【令和6年度「救急医療研修会」(Web 併用ハイブリッド形式)】

○会 場 福島市 福島県医師会館1階「大会議室」

○時 間 16:00～

○講 演

- ・演題 「多数傷病者対応の課題：秋葉原無差別殺傷事件を振り返って」
- ・講師 日本医科大学大学院救急医学分野 教授 横堀將司先生
- ・演題 「福島県ドクターヘリ活動内容」
- ・講師 福島県立医科大学医学部
救急医療学講座主任教授 伊関 憲先生
- ・座長 福島県病院協会 新谷史明副会長

○出席者 佐藤勝彦会長 他112名

3月17日(月) 【令和6年度第2回福島県地域医療対策協議会専門部会（書面開催）】

○議 題

- ・令和7年度地域医療支援教員等の派遣（案）について
- ・令和7年度自治医科大学卒業医師及び修学資金被貸与医師の配置（案）について
- ・令和8年度開始臨床研修医の募集定員について

○決議者 佐藤勝彦会長

3月18日(火) 【福島県自殺対策推進協議会アルコール健康障害対策推進部会】

○開催方法 Web 開催

○時 間 15:10～

○議 題

- ・福島県のアルコール健康障害対策に関する取組について

○出席者 佐久間 啓副会長

3月18日(火) 【福島県自殺対策推進協議会】

○開催方法 Web 開催

○時 間 15:40～

○議 題

- ・福島県の自殺の現状について
- ・第4次自殺対策推進行動計画関連事業の実施状況等について

- 市町村の取組状況について
- 令和7年度自殺対策事業（案）について

○出席者 佐久間 啓副会長

3月19日(水) 【令和6年度第2回常任理事会】

○場 所 福島市 杉妻会館3階「石楠花」

○時 間 15:00～

○議 題

- 令和6年度会務報告について
- 令和6年度各委員会における活動内容・令和7年度事業計画（案）について
- 「令和7年度定期総会（案）」について
- 「令和8年度福島県予算編成及び医療政策方針に対する要望事項」の検討について

○出席者 佐藤勝彦会長、新谷史明、本田雅人副会長、
及川友好、大木進司、近藤祐一郎、高萩周作、鈴木恭一、
土屋貴男常任理事、事務局2名

3月21日(金) 【2024年度ふくしま医療機器産業推進機構第2回評議会の開催
（Web 併用）】

○場 所 ふくしま医療機器開発支援センター

○時 間 13:30～

○議 題

- 2025年度事業計画（案）について
- 2025年度収支計画（案）について

○出席者 土屋貴男常任理事

3月21日(金) 【令和6年度第4回福島県地域医療対策協議会】

○開催形式 オンライン会議

○時 間 13:30～

○議 題

- 令和7年度地域医療支援教員等の派遣について
- 令和7年度自治医科大学卒業医師及び修学資金被貸与医師の配置（案）について
- 令和8年度開始臨床研修医の募集定員について
- 避難地域等医療復興計画（令和7年度版）（案）について

○出席者 佐藤勝彦会長、新谷史明副会長、大木進司常任理事

3月24日(月) 【公益財団法人福島県臓器移植推進財団理事会】

○開催方式 Web 開催

○時 間 18:30～

○議 題

- ・令和7年度事業報告について
- ・令和7年度収支決算報告について

○出席者 佐藤勝彦会長

3月24日(月) 【福島県在宅医療推進協議会（書面開催）】

○議 題

- ・在宅医療施策別ロジックモデルの評価
- ・令和6年度第8次福島県医療計画分野別総合評価書

○決議者 鈴木真一監事

3月26日(水) 【令和6年度福島県医療福祉情報ネットワーク協議会第3回理事会及び定時代議員会】

○会 場 福島市 福島県医師会館3階「中会議室」

○時 間 17:15～

○議 題

- ・入会・退会の承認について
- ・令和6年度補正予算案について
- ・令和7年度事業計画案について
- ・令和7年度予算案について

○出席者 佐藤勝彦会長

3月26日(水) 【福島県災害医療対策協議会（書面開催）】

○議 題

- ・福島県第8次医療計画（災害医療）に係る施策の評価や進捗状況の確認
- ・福島 DMAT 運営要綱の改正について

○裁 決 者 鈴木恭一常任理事

3月26日(水) 【福島県原子力災害医療対策協議会（書面開催）】

○議 題

- ・福島県第8次医療計画（原子力災害医療等）の施策の評価や進捗状況の確認

○裁 決 者 佐藤勝彦会長

3月27日(木) 【福島県医療審議会】

○開催方法 Web 開催

○時 間 14:15～

○議 題

- ・救命救急センター指定要綱の制定について
- ・第二種感染症指定医療機関の見直し

- 第3期福島県医療費適正化計画実績評価の報告及び
第4期福島県医療費適正化改革改正案の報告
- 第8次福島県医療計画の進行管理（試行）について

○出席者 佐藤勝彦会長、新谷史明副会長

3月28日(金) 【福島県医療審議会 保健医療計画部会】

○開催方法 杉妻会館 3階 百合

○時間 13:30～

○議題

- 第8次福島県医療計画の進行管理（試行）について

○出席者 佐藤勝彦会長

○ 事業共催（名義後援・名義共催等）

*事業名 令和6年度「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動

期 日 令和6年6月20日(木)～9月30日(月)

主 催 福島県、福島県薬物乱用防止指導員連合協議会、厚生労働省
公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター

*事業名 令和6年度「ダメ。ゼッタイ。」福島県普及運動

期 日 令和6年6月20日(木)～7月19日(金)

主 催 福島県、福島県薬物乱用防止指導員連合協議会、厚生労働省
公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター

*事業名 第63回福島県食事療養研究会連合会大会

期 日 令和6年6月28日(金)

主 催 福島県食事療養研究会

*事業名 臨床検査精度管理調査事業

期 日 令和6年6月～12月

主 催 福島県臨床検査技師会

*事業名 令和6年度「愛の血液助け合い運動」

期 日 令和6年7月1日(月)～7月31日(水)

主 催 福島県、市町村、日本赤十字社福島県支部

*事業名 医療ガス安全講習会

期 日 令和6年7月19日(金)

主 催 福島県一般高圧ガス協会

*事業名 「失語症全国大会 in ふくしま」

期 日 令和6年9月28日(土)

主 催 一般社団法人福島県言語聴覚士会、
失語症全国大会 in ふくしま実行委員会

- *事業名 日本高次脳機能障害友の会第20回全国大会2024 in 福島
期 日 令和6年10月4日(金)～5日(土)
主 催 NPO 法人日本高次脳機能障害友の会
- *事業名 「ピンクリボン in 郡山」2024
期 日 令和6年10月6日(日)
主 催 「ピンクリボン in 郡山」実行委員会
- *事業名 「第40回目の愛護デー講演会」
期 日 令和6年10月19日(土)
主 催 福島県眼科医会、(公財)福島県臓器移植推進財団
ライオンズクラブ国際協会332-D
- *事業名 第82回福島県診療情報管理研究会
期 日 令和6年11月21日(木)
主 催 福島県診療情報研究会
- *事業名 第3回ウイルス性肝炎領域における福島県医療安全講習会
期 日 令和7年2月3日(月)
主 催 アッヴィ合同会社
- *事業名 「令和6年度福島県合同輸血療法委員会講習会」
期 日 令和7年2月8日(土)
主 催 福島県合同輸血療法委員会、福島県保健福祉部薬務課、
福島県赤十字血液センター
- *事業名 「2025ふくしま病院合同説明会」
期 日 令和7年2月15日(土)
主 催 アシュランス株式会社
- *事業名 2025年福島県立医科大学「県民健康調査」国際シンポジウム
期 日 令和7年2月20日(木)
主 催 公立大学法人福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター
- *事業名 令和6年度介護対応研修会
期 日 令和7年3月2日(日)
主 催 福島県歯科医師会
- *事業名 「キビタン健康ネット設立10周年記念公開セミナー」
期 日 令和7年3月2日(日)
主 催 福島県医療福祉情報ネットワーク協議会
- *事業名 「福島県医療福祉関連学校・養成所進学相談会」
期 日 令和7年3月8日(土)
主 催 一般社団法人福島県医療福祉関連教育施設協議会

＊事業名 「ふくしま子ども・女性医療支援センター開設10周年記念講演」

期 日 令和7年4月12日(土)

主 催 公立大学法人福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター

○ 広告掲載

＊看護の日特集

掲載日 令和6年5月12日

掲載先 福島民友新聞社

＊看護の日特集

掲載日 令和6年5月12日

掲載先 福島民報社

＊医療特集

掲載日 令和6年7月号（6月10日発行）

掲載先 月刊「財界ふくしま」

＊「年賀 新年の御挨拶」

掲載日 令和7年1月1日

掲載先 福島民報社

＊「年賀 新年の御挨拶」

掲載日 令和7年1月1日

掲載先 福島民友新聞社

福島県からのお知らせ（令和6年4月～令和7年3月）

通知内容が必要であれば、写しをFAX又は郵送いたしますので、事務局までご連絡ください。

なお、件名頭の★印は冊子や厚手の資料ですので、貸出又は閲覧といたします。

災害支援ナース活動要領について（通知）	6 健 第 241 号 令和 6 年 4 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
「福島県肝炎治療特別推進事業実施要綱」の一部改正について（通知）	6 健 第 1530 号 令和 6 年 4 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
「福島県肝炎ウイルス検査及び陽性者フォローアップ事業実施要領」の一部改正について（通知）	6 健 第 1546 号 令和 6 年 4 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
救急病院の認定について－福島県ふたば医療センター附属病院－（通知）	6 健 第 2290 号 令和 6 年 4 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 1 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 107 号 令和 6 年 4 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
トラロキヌマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン使用（既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎）の一部改正について（通知）	6 健 第 122 号 令和 6 年 4 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
感染症法に基づく医療措置協定の締結等に係る説明会のアーカイブ配信について（通知）	6 健 第 55 号 令和 6 年 4 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
予防接種法施行令の一部を改正する政令等の施行について（通知）	6 健 第 111 号 令和 6 年 4 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
「予防接種法第 5 条第 1 項の規定による予防接種の実施について」の一部改正について（通知）	6 健 第 113 号 令和 6 年 4 月 2 日 保 健 福 祉 部 長

「定期の予防接種等による副反応疑いの報告等の取扱いについて」の一部改正等について（通知）	6 健 第 114 号 令和 6 年 4 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
「精神保健指定医の新規申請等に係る事務取扱要領の制定について」等の一部改正について（通知）	6 生 福 第 87 号 令和 6 年 4 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
「エムボックス診療の手引き大2.0版」の周知について（依頼）	6 健 第 268 号 令和 6 年 4 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
ポリオ生ワクチン2次感染対策事業実施細則の一部改正について（通知）	6 健 第 414 号 令和 6 年 4 月 9 日 保 健 福 祉 部 長
乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン及び乾燥弱毒生麻しんワクチンの供給について（通知）	6 健 第 540 号 令和 6 年 4 月 12 日 感 染 症 対 策 課 長
令和5年度福島県医療施設等物価高騰対策事業（第2回）について（依頼）	6 健 第 572 号 令和 6 年 4 月 12 日 保 健 福 祉 部 長
成人の侵襲性細菌感染症に係る研究について（依頼）	6 健 第 586 号 令和 6 年 4 月 15 日 感 染 症 対 策 課 長
「第14回産科医療補償制度再発防止に関する報告書の公表について」等について（通知）	6 健 第 597 号 令和 6 年 4 月 16 日 保 健 福 祉 部 長
「福島県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業実施要綱」の一部改正について（通知）	6 健 第 336 号 令和 6 年 4 月 16 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナワクチンの接種に伴い副反応を疑う症状が生じた者への対応について（通知）	6 健 第 693 号 令和 6 年 4 月 18 日 保 健 福 祉 部 長
「ドローンによる医薬品配送に関するガイドライン」の一部改正について（通知）	6 健 第 506 号 令和 6 年 4 月 18 日 保 健 福 祉 部 長

レプリキズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン使用（既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎）について（通知）	6 健 第 767 号 令和 6 年 4 月 19 日 保 健 福 祉 部 長
国有ワクチン及び抗毒素薬の供給体制等について（通知）	6 健 第 804 号 令和 6 年 4 月 22 日 薬 務 課 長
予防接種法に基づく健康被害救済制度における医療費・医療手当請求等の各種様式について（通知）	6 健 第 728 号 令和 6 年 4 月 23 日 保 健 福 祉 部 長
予防接種法に基づく健康被害救済制度における事務に当たって留意すべき事項について（通知）	6 健 第 730 号 令和 6 年 4 月 23 日 保 健 福 祉 部 長
救急病院の認定について（通知） － 済生会福島総合病院 －	6 健 第 503 号 令和 6 年 4 月 23 日 保 健 福 祉 部 長
先天梅毒対策の啓発リーフレットについて（依頼）	6 健 第 869 号 令和 6 年 4 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症に対応するための「巡回診療の医療法上の取り扱いについて」等の読み替えの終了について（通知）	6 健 第 876 号 令和 6 年 4 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
ゴールデンウィークの海外渡航者に対する感染症予防啓発について（通知）	6 健 第 863 号 令和 6 年 4 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
救急病院に関する申出内容の変更について（通知） － 桑野協立病院 －	6 健 第 1134 号 令和 6 年 4 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
感染症法に基づく医療措置協定の締結に係る協力依頼について（依頼）	6 健 第 1002 号 令和 6 年 4 月 30 日 保 健 福 祉 部 長
福島県協定締結医療機関施設・設備整備事業について（通知）	6 健 第 816 号 令和 6 年 4 月 30 日 保 健 福 祉 部 長

新たに薬事審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品の適応外使用について（通知）	6 健 第 1032 号 令和 6 年 5 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
「新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方及びその疑いがある方の処置、搬送、葬儀、火葬等に関するガイドライン」の廃止について（通知）	6 健 第 1014 号 令和 6 年 5 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度インフルエンザ HA ワクチン製造株の決定について（通知）	6 健 第 1117 号 令和 6 年 5 月 7 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬の医療機関への配分終了及び所有権の移転について（通知）	6 健 第 1120 号 令和 6 年 5 月 8 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 1 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 840 号 令和 6 年 5 月 10 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 1 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 893 号 令和 6 年 5 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
サリドマイド製剤、レナリドミド製剤及びボマリドミド製剤の使用にあたっての安全確保の徹底について（男性患者における服用中止後の否認の徹底）（通知）	6 健 第 1387 号 令和 6 年 5 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
「オンライン診療その他の遠隔医療に関する事例集（令和 6 年 4 月版）について」等について（通知）	6 健 第 1311 号 令和 6 年 5 月 16 日 保 健 福 祉 部 長
バル筋注100mg「AFP」の有効期間の延長について（通知）	6 健 第 1458 号 令和 6 年 5 月 16 日 保 健 福 祉 部 長
ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（胃癌及び胆道癌）の作成及び最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌、古典的ホジキンリンパ腫、尿路上皮癌、高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-High）を有する固形癌及び結腸・直腸癌、頭頸部癌、腎細胞癌、食道癌並びに乳癌）の簡略版への切替えについて（通知）	6 健 第 1541 号 令和 6 年 5 月 21 日 保 健 福 祉 部 長

令和6年度における新型コロナ定期接種ワクチン確保事業に対する助成事業について（通知）	6 健 第 1507 号 令和 6 年 5 月 21 日 保 健 福 祉 部 長
令和6年度結核予防技術者地区別講習会（東北地区）の開催について（通知）	6 健 第 1552 号 令和 6 年 5 月 22 日 保 健 福 祉 部 長
オマリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン使用（季節性アレルギー鼻炎）の一部改正について（通知）	6 健 第 1585 号 令和 6 年 5 月 22 日 保 健 福 祉 部 長
ネモリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン使用（アトピー性皮膚炎に伴うそう痒）の一部改正について（通知）	6 健 第 1586 号 令和 6 年 5 月 22 日 保 健 福 祉 部 長
医療施設関係各種施設・設備補助金に係る事業計画について（通知）	6 健 第 1569 号 令和 6 年 5 月 23 日 地 域 医 療 課 長
インフルエンザ病原体定点の非流行期の対応について（通知）	6 健 第 1639 号 令和 6 年 5 月 24 日 感 染 症 対 策 課 長
新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬の医療機関への配分について（通知）	6 健 第 1722 号 令和 6 年 5 月 27 日 保 健 福 祉 部 長
薬剤業務向上加算に関する取扱いについて（通知）	6 健 第 1736 号 令和 6 年 5 月 28 日 薬 務 課 長
「福島県小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存治療法研究促進事業補助金交付要綱」及び「福島県小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存治療法研究促進事業実施要領」の一部改正について（通知）	6 健 第 1856 号 令和 6 年 6 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
福島県地域医療介護総合確保基金事業補助金（病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備支援事業）に係る事業計画について（通知）	6 健 第 1870 号 令和 6 年 6 月 3 日 地 域 医 療 課 長
令和6年度診療報酬改定に伴うイデカブタゲンピクルユーセル、アキシカブタゲンシロツユーセル、チサゲンレクルユーセル及びリソカブタゲンマルユーセルの最適使用推進ガイドラインの一部改正について（通知）	6 健 第 1926 号 令和 6 年 6 月 3 日 保 健 福 祉 部 長

令和6年度診療報酬改定に伴うヒト（自己）骨髄由来間葉系幹細胞の最適使用推進ガイドラインの一部改正について（通知）	6 健 第 1927 号 令和6年6月3日 保 健 福 祉 部 長
令和6年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第1四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 1258 号 令和6年6月3日 保 健 福 祉 部 長
セミプリマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン使用（子宮頸癌）の一部改正について（通知）	6 健 第 1944 号 令和6年6月4日 保 健 福 祉 部 長
令和7年度医療施設等施設整備費補助金（有床診療所等スプリンクラー等施設整備事業）に係る事業計画の提出について（照会）	6 健 第 1948 号 令和6年6月4日 地 域 医 療 課 長
救急病院の認定について - 福島南循環器科病院 - （通知）	6 健 第 1575 号 令和6年6月6日 保 健 福 祉 部 長
救急病院に関する申出内容の変更について - 医療法人相雲会小野田病院 - （通知）	6 健 第 1999 号 令和6年6月10日 保 健 福 祉 部 長
「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）に向けた外国人患者受入れ体制整備の推進について」等について（通知）	6 健 第 2131 号 令和6年6月11日 保 健 福 祉 部 長
令和6年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第2四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 1457 号 令和6年6月13日 保 健 福 祉 部 長
救急病院の認定について - あづま脳神経外科病院 - （通知）	6 健 第 1955 号 令和6年6月16日 保 健 福 祉 部 長
令和6年度院内感染対策講習会について（通知）	6 健 第 2311 号 令和6年6月18日 保 健 福 祉 部 長
イブタコパン塩酸塩水和物製剤の使用にあたっての留意事項について（通知）	6 健 第 2570 号 令和6年6月24日 保 健 福 祉 部 長

電子処方箋導入予定及び補助事業の活用について（通知）	6 健 第 2351 号 令和 6 年 6 月 25 日 地 域 医 療 課 長
劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）について（通知）	6 健 第 2573 号 令和 6 年 6 月 25 日 感 染 対 策 課 長
ダニ媒介感染症に係る注意喚起について（通知）	6 健 第 2668 号 令和 6 年 6 月 28 日 保 健 福 祉 部 長
「『高齢者等終身サポート事業者ガイドライン』の策定について」等について（通知）	6 健 第 2726 号 令和 6 年 7 月 1 日 保 健 福 祉 部 長
新型インフルエンザ等対策政府行動計画改定の閣議決定及び HP 掲載について（通知）	6 健 第 2805 号 令和 6 年 7 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
治験における同意文書及び説明文書の共通様式の活用について（通知）	6 健 第 2935 号 令和 6 年 7 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
組換え沈降 B 型肝炎ワクチン（酵母由来）「ピームゲン注」の限定出荷の解除について（通知）	6 健 第 2907 号 令和 6 年 7 月 8 日 保 健 福 祉 部 長
「精神保健指定医の新規申請等に係る事務取扱要領の制定について」の一部改正について（通知）	6 生 福 第 1972 号 令和 6 年 7 月 11 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 2 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 2079 号 令和 6 年 7 月 17 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナ定期接種ワクチン確保事業に対する助成事業について（通知）	6 健 第 3207 号 令和 6 年 7 月 17 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度医療施設関係各種施設・設備補助金に係る二次募集について（通知）	6 健 第 3287 号 令和 6 年 7 月 23 日 保 健 福 祉 部 長

オロプーシェ熱に関する情報提供及び協力依頼等について (依頼)	6 健 第 3315 号 令和 6 年 7 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪 番計画表（第 2 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 2200 号 令和 6 年 7 月 25 日 保 健 福 祉 部 長
病床機能再編支援事業（令和 7 年度以降）に係る活用意向調査に ついて（依頼）	6 健 第 3335 号 令和 6 年 7 月 25 日 地 域 医 療 課 長
人を発病させるおそれがほとんどないものとして厚生労働大臣が 指定する病原体等の一部を改正する件の公布について（通知）	6 健 第 3303 号 令和 6 年 7 月 26 日 保 健 福 祉 部 長
妊産婦における劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）につい て（通知）	6 健 第 3361 号 令和 6 年 7 月 29 日 感 染 対 策 課 長
夏季休暇の海外渡航者に対する感染症予防啓発について（通知）	6 健 第 3426 号 令和 6 年 7 月 29 日 感 染 対 策 課 長
令和 6 年度厚生労働省委託事業「重症患者診療体制整備事業」に おける ECOM・人工呼吸器管理研修の実施について（通知）	6 健 第 3524 号 令和 6 年 7 月 31 日 保 健 福 祉 部 長
「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」 及び「地域における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進 め方」について（通知）	6 健 第 3497 号 令和 6 年 7 月 31 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県医療施設等物価高騰対策事業について（依頼）	6 健 第 3520 号 令和 6 年 7 月 31 日 保 健 福 祉 部 長
「地域の公共交通リ・デザイン連携・協働指針の周知について」 等について（通知）	6 健 第 3619 号 令和 6 年 8 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
新型コロナウイルス感染症の夏の感染拡大に備えた注意喚起につ いて（通知）	6 健 第 3677 号 令和 6 年 8 月 5 日 保 健 福 祉 部 長

新たに薬事審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品の適応外使用について（通知）	6 健 第 3658 号 令和 6 年 8 月 6 日 保 健 福 祉 部 長
手足口病に関する注意喚起について（通知）	6 健 第 3711 号 令和 6 年 8 月 7 日 感 染 症 対 策 課 長
「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）診察の手引き2024版」等の周知について（通知）	6 健 第 3815 号 令和 6 年 8 月 7 日 感 染 症 対 策 課 長
地域医療介護総合確保基金（介護分）における介護従事者の確保に関する令和 7 年事業提案の募集について（通知）	6 生 福 第 2388 号 令和 6 年 8 月 8 日 保 健 福 祉 部 長
地域医療介護総合確保基金（医療分）を活用した令和 7 年事業提案の募集について（通知）	6 健 第 3769 号 令和 6 年 8 月 9 日 保 健 福 祉 部 長
「定期の予防接種等による副反応疑いの報告等の取扱いについて」の一部改正等について（通知）	6 健 第 3886 号 令和 6 年 8 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
リソカプタゲン マラルユーセルの最適使用推進ガイドラインの一部改正について（通知）	6 健 第 3947 号 令和 6 年 8 月 19 日 保 健 福 祉 部 長
エムボックスに関する情報提供及び協力依頼について（依頼）	6 健 第 3982 号 令和 6 年 8 月 20 日 感 染 症 対 策 課 長
オロプーシュ熱検査のための検体の搬送方法等について（通知）	6 健 第 3992 号 令和 6 年 8 月 20 日 感 染 症 対 策 課 長
地域医療介護総合確保基金事業（区分Ⅰ-1 及びⅠ-2）の期間延長について（依頼）	6 健 第 3984 号 令和 6 年 8 月 21 日 地 域 医 療 課 長
がん診療連携拠点病院等の指定の推薦等の手続きについて（通知）	6 健 第 4313 号 令和 6 年 8 月 30 日 保 健 福 祉 部 長

がんゲノム医療中核拠点病院等の現況報告書の提出について (通知)	6 健 第 4301 号 令和 6 年 8 月 30 日 保 健 福 祉 部 長
令和 7 年度医療施設等設備整備補助事業の追加募集について (通知)	6 健 第 4203 号 令和 6 年 8 月 30 日 地 域 医 療 課 長
世界的なポリオ根絶に向けた、不必要なポリオウイルスの廃棄に ついて (通知)	6 健 第 4137 号 令和 6 年 8 月 30 日 感 染 症 対 策 課 長
ペムブロリズマブ (遺伝子組換え) 製剤の最適使用推進ガイドラ イン (非小細胞肺癌、悪性黒色腫、古典的ホジキンリンパ腫、尿 路上皮癌、高頻度マイクロサテライト不安定性 (MIS-High) を 有する固形癌及び結腸・直腸癌、頭頸部癌、腎細胞癌、食道癌、 乳癌、子宮体癌、高い腫瘍遺伝子変異量 (TMB-High) を有する 固形癌、子宮頸癌、原発性縦隔大細胞型 B 細胞リンパ腫、胃癌 並びに胆道癌) の一部改正について (通知)	6 健 第 4323 号 令和 6 年 9 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
小児がん拠点病院の現況報告書の提出について (通知)	6 健 第 4310 号 令和 6 年 9 月 2 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪 番計画表 (第 2 四半期) の一部変更について (通知)	6 生 福 第 2788 号 令和 6 年 9 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
急性弛緩性麻痺の情報提供について (通知)	6 健 第 4392 号 令和 6 年 9 月 3 日 感 染 症 対 策 課 長
ダニ媒介脳炎に関するリスクアセスメントについて (通知)	6 健 第 4399 号 令和 6 年 9 月 3 日 感 染 症 対 策 課 長
麻薬取扱者免許申請 (更新) 事務手続きについて (通知)	6 健 第 4430 号 令和 6 年 9 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪 番計画表 (第 2 四半期) の一部変更について (通知)	6 生 福 第 2831 号 令和 6 年 9 月 4 日 保 健 福 祉 部 長

「新型インフルエンザ等対策政府行動計画ガイドライン」の公表について（通知）	6 健 第 4387 号 令和 6 年 9 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
福島県電子処方箋の活用・普及促進事業の実施について（通知）	6 健 第 4536 号 令和 6 年 9 月 6 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度病院前医療体制における指導医等研修（初級者）に係る受講者の募集について（通知）	6 健 第 4537 号 令和 6 年 9 月 6 日 保 健 福 祉 部 長
患者からの医薬品副作用報告に関する広報の周知について（依頼）	6 健 第 4548 号 令和 6 年 9 月 6 日 保 健 福 祉 部 長
長期収載品の選定療養における肝炎治療特別促進事業の助成対象について（通知）	6 健 第 4512 号 令和 6 年 9 月 10 日 感 染 症 対 策 課 長
厚生労働省委託事業令和 6 年度サイバーセキュリティ対策研修について（通知）	6 健 第 4583 号 令和 6 年 9 月 10 日 地 域 医 療 課 長
小児の肺炎球菌感染症に係る定期の予防接種の実施方法について（通知）	6 健 第 4627 号 令和 6 年 9 月 11 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度厚生労働省委託事業に係る在宅医療の各種研修の開催について（通知）	6 健 第 4764 号 令和 6 年 9 月 17 日 地 域 医 療 課 長
デュピルマブ（遺伝子組み換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎）の一部改正について（通知）	6 健 第 4739 号 令和 6 年 9 月 17 日 保 健 福 祉 部 長
医薬若しくは歯科医薬又は病院若しくは診療所に関する広告等に関する指針の一部改正について（通知）	6 健 第 4779 号 令和 6 年 9 月 17 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度医療安全ワークショップ及び医療安全セミナーの開催について（通知）	6 健 第 4764 号 令和 6 年 9 月 18 日 地 域 医 療 課 長

令和6年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第3四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 3087 号 令和6年9月18日 保 健 福 祉 部 長
2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）開催に伴う感染症サーベイランスの取組強化について（通知）	6 健 第 4662 号 令和6年9月19日 感 染 症 対 策 課 長
季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの供給等について（通知）	6 健 第 4950 号 令和6年9月20日 保 健 福 祉 部 長
令和6年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業」に関する各種研修会の開催について（通知）	6 健 第 4960 号 令和6年9月25日 地 域 医 療 課 長
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症の治療薬（フェトロージャ点滴静注用1g）の適正使用に関するアンケート調査について（通知）	6 健 第 4958 号 令和6年9月26日 感 染 症 対 策 課 長
ウパダシチニブ水和物製剤の最適使用推進ガイドライン使用（既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎）の一部改正について（通知）	6 健 第 5034 号 令和6年9月26日 保 健 福 祉 部 長
ペムプロリズマブ（遺伝子組み換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（尿路上皮癌）の一部改正について（通知）	6 健 第 5036 号 令和6年9月26日 保 健 福 祉 部 長
令和6年度病床機能報告事項及び害あり機能報告の実施について（通知）	6 健 第 5004 号 令和6年9月30日 地 域 医 療 課 長
「予防接種法第5条第1項の規定による予防接種の実施について」の一部改正について（通知）	6 健 第 5106 号 令和6年9月30日 保 健 福 祉 部 長
予防接種実施規則の一部を改正する省令の公布について（通知）	6 健 第 5109 号 令和6年9月30日 保 健 福 祉 部 長
「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 第31回報告書」及び「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 2023年年報」の周知について（通知）	6 健 第 5180 号 令和6年10月7日 保 健 福 祉 部 長

特定対象医師の時間外・休日労働の実態調査について（依頼）	6 健 第 5277 号 令和 6 年 10 月 9 日 保 健 福 祉 部 長
ルワンダ共和国におけるマールブルグ病の発生に係る注意喚起について（通知）	6 健 第 5381 号 令和 6 年 10 月 10 日 感 染 対 策 課 長
マイコプラズマ肺炎に関する注意喚起について（通知）	6 健 第 5382 号 令和 6 年 10 月 10 日 感 染 対 策 課 長
福島県地域医療復興事業補助金交付要綱の改正及び交付申請について（通知）	6 健 第 4630 号 令和 6 年 10 月 11 日 保 健 福 祉 部 長
感染症法に基づく医療措置協定の締結状況等について（通知）	6 健 第 5280 号 令和 6 年 10 月 15 日 保 健 福 祉 部 長
デング熱の国内感染が疑われる症例の発生について（通知）	6 健 第 5482 号 令和 6 年 10 月 15 日 感 染 対 策 課 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 3 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 3577 号 令和 6 年 10 月 16 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度在宅医療エキスパート薬剤師人材育成セミナーの開催について（通知）	6 健 第 5569 号 令和 6 年 10 月 17 日 保 健 福 祉 部 長
個人防護具の配布の実施について（通知）	6 健 第 5565 号 令和 6 年 10 月 18 日 保 健 福 祉 部 長
エムボックスの発生届の感染症サーベイランスシステムへの入力について（通知）	6 健 第 5642 号 令和 6 年 10 月 22 日 感 染 対 策 課 長
令和 6 年度福島県地域医療介護総合確保基金事業補助金交付要綱の改正及び交付申請について（通知）	6 健 第 5654 号 令和 6 年 10 月 24 日 保 健 福 祉 部 長

協定締結医療機関の協定の実施状況等の報告及び医療機関等情報支援システム（G-MIS）のID付与について（通知）	6 健 第 5672 号 令和 6 年10月28日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県地域医療介護総合確保基金事業補助金（介護人材確保対策事業）の募集について（通知）	6 健 第 3779 号 令和 6 年10月30日 社 会 福 祉 課 長
国内外におけるカンジタ・アウリス（candida auris）感染症について（通知）	6 健 第 6097 号 令和 6 年11月11日 感 染 対 策 課 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 3 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 4030 号 令和 6 年11月13日 保 健 福 祉 部 長
今シーズンのインフルエンザ総合対策の推進について（通知）	6 健 第 6218 号 令和 6 年11月13日 感 染 対 策 課 長
「ヘルパウイルス感染症 診療指針」の周知について（通知）	6 健 第 6220 号 令和 6 年11月13日 感 染 対 策 課 長
「医療安全推進週間」の取り組みについて（依頼）	6 健 第 6376 号 令和 6 年11月18日 保 健 福 祉 部 長
麻しんの国内での報告事項数増加に伴う注意喚起について（通知）	6 健 第 6400 号 令和 6 年11月18日 感 染 対 策 課 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 3 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 4100 号 令和 6 年11月19日 保 健 福 祉 部 長
ドナネマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドラインについて（通知）	6 健 第 6480 号 令和 6 年11月21日 保 健 福 祉 部 長
茨城県の救急搬送における選定療養費の取扱いについて（依頼）	6 健 第 6212 号 令和 6 年11月22日 保 健 福 祉 部 長

ディルバルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（子宮体癌）の作成及び最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌、小細胞肺癌、肝細胞癌及び胆道癌）の一部改正について（通知）	6 健 第 6587 号 令和 6 年 11 月 26 日 保 健 福 祉 部 長
ベムプロリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（子宮体癌）の一部改正について（通知）	6 健 第 6588 号 令和 6 年 11 月 26 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年医師・歯科医師・薬剤師届出、看護師等業務従事者届出及び歯科衛生士・歯科技工士業務従事者届出について（依頼）	6 保 第 2186 号 令和 6 年 11 月 26 日 保 健 福 祉 部 長
抗インフルエンザウイルス薬等の安定供給について（通知）	6 健 第 6736 号 令和 6 年 11 月 28 日 保 健 福 祉 部 長
インフルエンザ病原体定点の流行期の対応について（通知）	6 健 第 6021 号 令和 6 年 11 月 28 日 感 染 対 策 課 長
季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの定期的予防接種における接種時期等について（通知）	6 健 第 6709 号 令和 6 年 11 月 28 日 感 染 対 策 課 長
「ミフェプリストン及びミソロストール製剤の使用にあたっての留意事項について（依頼）」の一部改正について（通知）	6 健 第 6811 号 令和 6 年 12 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 3 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 4402 号 令和 6 年 12 月 3 日 保 健 福 祉 部 長
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行について（通知）	6 健 第 7031 号 令和 6 年 12 月 10 日 保 健 福 祉 部 長
HPV ワクチンのキャッチアップ接種に関する注意喚起と経過措置に関する情報提供について（通知）	6 健 第 6872 号 令和 6 年 12 月 12 日 保 健 福 祉 部 長
年末年始の国有ワクチン緊急連絡先について（通知）	6 健 第 7137 号 令和 6 年 12 月 12 日 薬 務 課 長

救急病院の指定について　－福島西部病院－（通知）	6 健 第 6697 号 令和 6 年12月15日 保 健 福 祉 部 長
「令和 6 年度福島県災害派遣福祉チーム養成研修」の開催について（依頼）	6 生 福 第 4672 号 令和 6 年12月16日 社 会 福 祉 課 長
年末年始の海外渡航者に対する感染症予防啓発について（通知）	6 健 第 7147 号 令和 6 年12月16日 感 染 対 策 課 長
乾燥弱毒性麻しん風しん混合ワクチンの今後の供給見通し等について（通知）	6 健 第 7206 号 令和 6 年12月16日 感 染 対 策 課 長
新型コロナウイルス感染症の冬の感染拡大に備えた注意喚起について（通知）	6 健 第 7164 号 令和 6 年12月17日 保 健 福 祉 部 長
「「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」の一部改正について」等について（通知）	6 健 第 7255 号 令和 6 年12月17日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度医師救急医療業務実務実地修練に係る受講者の募集について（通知）	6 健 第 7360 号 令和 6 年12月20日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度看護師救急医療業務実務実地修練に係る受講者の募集について（通知）	6 健 第 7361 号 令和 6 年12月20日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度医療機関に所属する救命救急士実務実地修練に係る受講者の募集について（通知）	6 健 第 7692 号 令和 6 年12月20日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 4 四半期）について（通知）	6 生 福 第 4756 号 令和 6 年12月20日 保 健 福 祉 部 長
福島県新型インフルエンザ等対策行動計画（改定案）に係る県民意見公募の実施について（通知）	6 健 第 7490 号 令和 6 年12月24日 感 染 対 策 課 長

「医療機関における年末年始の情報セキュリティに関する注意喚起」等について（通知）	6 健 第 7637 号 令和 6 年 12 月 25 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県後発医薬品研修会の開催について（通知）	6 健 第 7515 号 令和 6 年 12 月 26 日 保 健 福 祉 部 長
小児の原因不明の急性肝炎への調査協力の依頼について（通知）	6 健 第 7639 号 令和 6 年 12 月 26 日 感 染 対 策 課 長
ルワンダ共和国におけるマールブルグ病の終息について（通知）	6 健 第 7640 号 令和 6 年 12 月 26 日 感 染 対 策 課 長
マイナ保険証への移行による肝炎対策協議会等医療費助成に係る医療保険の加入関係の確認方法について（通知）	6 健 第 7634 号 令和 6 年 12 月 27 日 感 染 対 策 課 長
タルラタマブ（遺伝子組換え）製剤の使用にあたっての留意事項について（通知）	6 健 第 7763 号 令和 7 年 1 月 7 日 保 健 福 祉 部 長
テクリスタマブ（遺伝子組換え）製剤の使用にあたっての留意事項について（通知）	6 健 第 7764 号 令和 7 年 1 月 7 日 保 健 福 祉 部 長
ニボルマブ（遺伝子組み換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（尿路上皮癌、悪性黒色腫、非小細胞肺癌、頭頸部癌、腎細胞癌、古典的ホジキンリンパ腫、胃癌、悪性胸膜中皮腫、高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-high）を有する結腸・直腸癌、食道癌、原発不明癌、悪性中皮腫（悪性胸膜中皮腫を除く）及び上皮系皮膚悪性腫瘍）の一部改正について（通知）	6 健 第 7765 号 令和 7 年 1 月 7 日 保 健 福 祉 部 長
ペムプロリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（子宮体癌）の一部改正について（通知）	6 健 第 7770 号 令和 7 年 1 月 7 日 保 健 福 祉 部 長
モスネツズマブ（遺伝子組換え）製剤の使用にあたっての留意事項について（通知）	6 健 第 7772 号 令和 7 年 1 月 7 日 保 健 福 祉 部 長
注射用アビバクタムナトリウム・セフトアジジム水和物（ザビセフタ配合点滴静注用）のカルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症における適正使用について（通知）	6 健 第 7853 号 令和 7 年 1 月 8 日 保 健 福 祉 部 長

インフルエンザ等の感染拡大に備えた注意喚起について（依頼）	6 健 第 8000 号 令和 7 年 1 月 10 日 感 染 対 策 課 長
令和 7 年度定期接種に関する標準的な接種費用（带状疱疹ワクチン及び新型コロナワクチン）について（通知）	6 健 第 8002 号 令和 7 年 1 月 10 日 感 染 対 策 課 長
社会保険診療報酬支払基金における電子処方箋管理サービス関係補助金の申請条件について（通知）	6 健 第 8100 号 令和 7 年 1 月 15 日 地 域 医 療 課 長
「抗インフルエンザウイルス薬等の安定供給について」の一部訂正について（通知）	6 健 第 8217 号 令和 7 年 1 月 20 日 保 健 福 祉 部 長
電子処方箋管理サービスへの院内処方情報登録機能について（通知）	6 健 第 8239 号 令和 7 年 1 月 20 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度第 2 回福島県医療施設等物価高騰対策事業について（依頼）	6 健 第 8240 号 令和 7 年 1 月 24 日 保 健 福 祉 部 長
「医療事故情報収集等事業第 79 回報告書の公表について」等について（通知）	6 健 第 8510 号 令和 7 年 1 月 28 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度結核対策研修会（医療機関向け）について（通知）	6 健 第 8474 号 令和 7 年 1 月 30 日 保 健 福 祉 部 長
令和 7 年度以降の制度改正を踏まえた「予防接種法第 5 条第 1 項の規定による予防接種の実施について」の一部改正等にかかる予告について（通知）	6 健 第 8676 号 令和 7 年 2 月 3 日 感 染 対 策 課 長
「精神保健指定医の新規申請等に係る事務取扱要領の制定位について」等の一部改正について（通知）	6 生 福 第 5440 号 令和 7 年 2 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
予防接種実施規則の一部を改正する省令の正誤について（通知）	6 健 第 8782 号 令和 7 年 2 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
救急病院に関する申出内容の変更について　－福島県厚生農業協同組合連合会　白河厚生総合病院－（通知）	6 健 第 8833 号 令和 7 年 2 月 5 日 保 健 福 祉 部 長

救急病院に関する申出内容の変更について　－あづま脳神経外科 病院－（通知）	6 健 第 8836 号 令和 7 年 2 月 5 日 保 健 福 祉 部 長
多剤耐性で重篤な感染症を引き起こす恐れのあるカンジタ・アウ リス（Candida auris）の連絡体制（情報提供及び依頼）の改正 について（通知）	6 健 第 8898 号 令和 7 年 2 月 7 日 感 染 対 策 課 長
令和 7 年度以降の制度改正を踏まえた「予防接種法第 5 条第 1 項 の規定による予防接種の実施について」の一部改正等にかかる予 告の一部差し替えについて（送付）	6 健 第 8757 号 令和 7 年 2 月 10 日 感 染 対 策 課 長
「保健医療情報分野の標準規格（厚生労働省標準規格）につい て」の一部改正について」等について（通知）	6 健 第 8945 号 令和 7 年 2 月 10 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪 番計画表（第 4 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 5681 号 令和 7 年 2 月 10 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度の「風しん追加対策」いかかる対応について（依頼）	6 健 第 8953 号 令和 7 年 2 月 13 日 感 染 対 策 課 長
新型コロナウイルス感染症患者等公費支援に係る請求期限につい て（依頼）	6 健 第 9112 号 令和 7 年 2 月 14 日 感 染 対 策 課 長
令和 6 年度厚生労働省病院救急車患者搬送研修会に係る受講者の 募集について（通知）	6 健 第 9133 号 令和 7 年 2 月 17 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪 番計画表（第 4 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 5856 号 令和 7 年 2 月 17 日 保 健 福 祉 部 長
サリドマイド製剤、レナリドミド製剤及びボマリドミド製剤の使 用に当たっての安全管理手順の改定について（通知）	6 健 第 9261 号 令和 7 年 2 月 18 日 保 健 福 祉 部 長
エコーウイルス 11 型（E-11）感染症の実態把握について（依頼）	6 健 第 9091 号 令和 7 年 2 月 19 日 感 染 対 策 課 長

アテゾリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（胞巣状軟部肉腫）の作成及び最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌、小細胞癌、乳癌及び肝細胞癌）の一部改定について（通知）	6 健 第 9393 号 令和 7 年 2 月 21 日 保 健 福 祉 部 長
ニボルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（悪性黒色腫）の一部改定について（通知）	6 健 第 9394 号 令和 7 年 2 月 21 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度厚生労働省補正予算事業（病床数適正化支援事業）に係る事業計画（活用意向調査）について（通知）	6 健 第 9454 号 令和 7 年 2 月 26 日 地 域 医 療 課 長
白河厚生総合病院の結核病床等について（通知）	6 健 第 8897 号 令和 7 年 3 月 3 日 感 染 対 策 課 長
移植希望者（レシピエント）による移植実施施設の登録複数化について（通知）	6 健 第 9717 号 令和 7 年 3 月 3 日 地 域 医 療 課 長
四種混合ワクチンの販売中止に係わる対応について（通知）	6 健 第 9704 号 令和 7 年 3 月 4 日 感 染 対 策 課 長
国が備蓄している使用推奨期限切れの個人防護具の配布について（通知）	6 健 第 9168 号 令和 7 年 3 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
「再生医療等の安全性の確保等に関する法律等に関する Q&A（統合版）について」等について（通知）	6 健 第 9767 号 令和 7 年 3 月 4 日 保 健 福 祉 部 長
新たに薬事審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品の適応外使用について（通知）	6 健 第 9946 号 令和 7 年 3 月 7 日 保 健 福 祉 部 長
救急病院の認定について - 医療法人辰星会 柊記念病院 - （通知）	6 健 第 9527 号 令和 7 年 3 月 9 日 保 健 福 祉 部 長
令和 6 年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第 4 四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 6472 号 令和 7 年 3 月 12 日 保 健 福 祉 部 長

令和7年岩手県大船渡市において発生した大規模火災にかかる予防接種の取扱いについて（通知）	6 健 第 10239 号 令和7年3月13日 感 染 対 策 課 長
麻しん及び風しんの定期的予防接種に係る対応について（通知）	6 健 第 10363 号 令和7年3月14日 感 染 対 策 課 長
チルゼパチド製剤の最適使用推進ガイドライン（肥満症）の作成について（通知）	6 健 第 10570 号 令和7年3月21日 保 健 福 祉 部 長
福島県新型インフルエンザ等対策行動計画の変更について（通知）	6 健 第 10724 号 令和7年3月24日 保 健 福 祉 部 長
麻しんでの国内外での報告数増加に伴う注意喚起について（通知）	6 健 第 10707 号 令和7年3月25日 感 染 対 策 課 長
「「医業若しくは歯科医業又は病院若しくは診療所に関する広告等に関する指針（医療広告ガイドライン）に関する Q&A について」の改訂について」等について（通知）	6 健 第 10658 号 令和7年3月27日 保 健 福 祉 部 長
認知症等により本人の意思確認が容易ではない方に対する定期的予防接種に関する疑義解釈について（通知）	6 健 第 10902 号 令和7年3月27日 感 染 対 策 課 長
「感染症発生動向調査事業における届出の質向上のためのガイドライン【医師向け】」について（通知）	6 健 第 10996 号 令和7年3月28日 感 染 対 策 課 長
令和7年度福島県精神科救急医療システム医療施設ブロック別輪番計画表（第1四半期）の一部変更について（通知）	6 生 福 第 6959 号 令和7年3月28日 保 健 福 祉 部 長
チソツマブ ベドチン（遺伝子組換え）製剤の使用にあたっての留意事項について（通知）	6 健 第 10985 号 令和7年3月31日 保 健 福 祉 部 長
ディプルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（慢性閉塞性肺疾患）について（通知）	6 健 第 10987 号 令和7年3月31日 保 健 福 祉 部 長
ディルバルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（小細胞肺癌、非小細胞肺癌、肝細胞癌及び胆道癌）の一部改正について（通知）	6 健 第 10988 号 令和7年3月31日 保 健 福 祉 部 長

作品募集のお願い

～『受け身の姿勢からは停滞しか生まれません』～

広報委員会

一般社団法人福島県病院協会会報の発行につきましては、会員より有形無形にご支援とご協力を賜りまして感謝申し上げます。

おかげさまを持ちまして、1973年に『医療体制の確立に邁進するため、会員（当時は78会員）の意見や随筆等を掲載して相互の緊密を図る』目的で創刊号が刊行されて以来、先哲の伝統を継承し「No.120」を数えることとなりました。

広報委員会では、更なる新たな歴史の創造を期し、より多くの皆様に興味・関心を頂戴できる親しまれる会報づくりを目指しております。そのためには皆様方からの積極的なご投稿が欠かせません。広報委員会では、下記の枠にあるような企画で編集を行っております。

つきましては、各病院の先生方、事務長さん、看護師長さんをはじめとした関係各位の玉稿及び作品の応募が不可欠です。また、会報編集上の新しい企画へのアイデアも募集しております。ふるってご応募、またのご意見を賜りますようお願いいたします。

表紙：病院所蔵の絵画（絵画解説の文言）

評論：医療政策、医療保険、介護保険、救急医療、病診連携、初期研修、機能評価、広告規制、診療情報開示などの医療に関するご意見や提言。

学術：原著、症例報告、研究紹介、学会印象記、講演記録など。

随想：心に思い浮かぶことを書き綴った作品。

旅行記：国内・外旅行、個人・団体旅行の記録や感想。

文芸：俳句、短歌、川柳、詩、小説、童話など。

芸術：絵画、書道、写真、イラスト、図表など。

現在、会報は年1回発行する編集計画です。多くの皆様からの原稿は事務局におきまして、常時受付けております。

投稿に際しましては、原稿用紙、パソコンでの原稿のいずれでも結構です。

『受け身の姿勢からは停滞しか生まれません』、作品を自分自身のみで温めて置かずに、是非とも積極的にご投稿いただきたく、編集子一同心待ちにしております。

なお、お問い合わせ及び原稿送付先は「一般社団法人福島県病院協会事務局」です。

編集後記

会員の皆様には大変お世話になっております。福島県病院協会会報 No.120をお届けします。

表紙の坪内好子氏の作は金箔の上に緻密で繊細な線で描かれており物語のような夢の世界に引き込まれそうです。

巻頭言は新谷史明先生の「支援は急を要する」～政策の実効性と医療現場の財政改善に向けて～です。地域医療を守るためにも支援を含めた医療体制の確立が必要であるとの思いは私を含め皆様の願いと思います。

報告では病院経営の困難さ・働き方改革への対応・様々な感染の持続など課題が山積しており、また2027年7月に日本病院学会が郡山で開催されることが決定されました。

特別公演では麻生飯塚病院顧問 安藤廣美先生から医療における TQM（総合的品質管理）の戦略的意義の中で職員一人ひとりが自律的に進化し続ける組織を構築することが次世代の医療を担う唯一の道であると述べられました。

新役員からの寄稿は会津中央病院長の前田佳一郎先生、太田西ノ内病院長高橋皇基先生、二本松病院長鈴木眞一先生からありました。お忙しい中での自己紹介と病院紹介に感謝致します。

講座紹介は福島県立医科大学小児科学講座の郷勇人主任教授と同眼科学講座の向井亮主任教授より載しました。教育・研究・地域への貢献についての抱負を述べていただきました。

渡辺さんの法律相談室では患者以外の第三者からの診療記録開示請求についての解説です。

その他令和6年度会務報告と福島県からのお知らせが載っています。

広報委員会より医療関係者各位の新しい企画やアイデアの募集のお知らせがあります。

読み応えのある話題満載になっております。また今回の No.120号発行が遅れましたことお詫びいたします。

（文責：赤津晋太郎）

URL <https://fukushima-ha.or.jp/>

2026年2月

発行人 福島市新町4-22

（福島県医師会館内）

一般社団法人 福島県病院協会

TEL (024)521-1752

会長 佐藤 勝彦

FAX (024)521-2986

印刷所 福島市庄野字柿場1-11

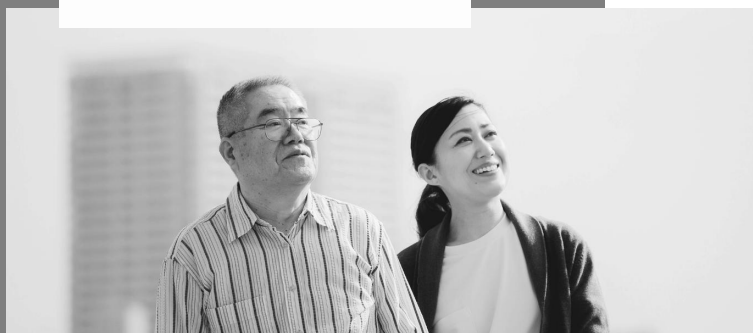
TEL (024)593-5111

株式会社 阿部紙工



いのちと向き合う人を 支えたい

小さな怪我、いのちに関わる大きな病。
医療に関わる人たちが最善の医療を提供するために。
患者様が希望を持って病と向き合うために。
最新の医療情報をお届けし、
より良い医療機器をご提案することが使命。
私たちはサンセイ医機株式会社です。



SNS
サンセイ医機株式会社

つなぐ、人と未来
OLBA
GROUP

本店：〒963-8822 福島県郡山市昭和二丁目11番5号 TEL 024-944-1157

福島営業所 024-545-3041 郡山営業所 024-944-1127 会津営業所 0242-39-6801 いわき営業所 0246-27-2300 原町営業所 0244-23-4611 東京営業所 042-370-6531
仙台営業所 022-746-8875 栃木営業所 0289-72-0155 物流センター 0243-62-0155

Innovation for Wellbeing

すべての人々の幸せと、より良い社会のために。
私たちは、笑顔と活力あふれる「確かな明日」へ、
イノベーションを起こし続けます。



損保ジャパンは SOMPO グループの一員です。

損害保険ジャパン株式会社

福島支店 福島支社

〒960-8105 福島県福島市仲間町 9-16 日産第2ビル 4F

<https://www.sompo-japan.co.jp/>